

第 8 回

越 谷 市 教 育 委 員 会 議 事 録

令和5年 7 月 2 7 日

定 例 会

# 令和5年第8回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和5年7月27日（第33号議案以外）

招集の場所 越谷市役所本庁舎8階 第1委員会室

開閉会日時 開会 7月27日 午前 9時30分

閉会 7月27日 午前10時30分

## 出席委員

|       |         |                |         |
|-------|---------|----------------|---------|
| 教 育 長 | 吉 田 茂   | 教 育 長<br>職務代理者 | 野 口 久 男 |
| 委 員   | 荒 木 明 子 | 委 員            | 渡 辺 律 子 |
| 委 員   | 山 口 文 平 | 委 員            | 東 宏 行   |

欠席委員 な し

## 説明のため会議に出席した者の職氏名

|                                      |         |                                            |         |
|--------------------------------------|---------|--------------------------------------------|---------|
| 教育総務部長                               | 小 泉 隆 行 | 学校教育部長                                     | 青 木 元 秀 |
| 教育総務部<br>副 参 事 兼<br>教育総務課長           | 會 田 修   | 学校教育部<br>副 参 事 兼<br>学務課長兼<br>小中一貫校<br>整備室長 | 磯 山 貴 則 |
| 生涯学習課長                               | 木 村 和 明 | 指 導 課 長                                    | 佐 藤 泰 弘 |
| スポーツ振興<br>課 長                        | 坂 卷 孝 二 | 給 食 課 長                                    | 中 野 聡   |
| 図 書 館 長                              | 茂 木 実   | 教育センター<br>所 長                              | 菊 池 邦 隆 |
| 生涯学習課<br>調 整 幹 兼<br>科学技術体験<br>センター所長 | 小 抜 麻衣子 | 指導課調整幹                                     | 二 瓶 剛   |
| 新方公民館長                               | 中 村 則 行 | 給 食 課<br>調 整 幹 兼<br>第一学校給食<br>センター所長       | 益 本 雅 行 |
|                                      |         | 教育センター<br>調 整 幹                            | 秋 元 伸 也 |

## 職務のため会議に出席した者の職氏名

|                |         |
|----------------|---------|
| 教育総務課<br>調 整 幹 | 鈴 木 理 香 |
|----------------|---------|

## 令和5年第8回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和5年7月27日（第33号議案のみ）

招集の場所 越谷市役所本庁舎8階 第1委員会室

開閉会日時 開会 7月27日 午前10時30分

閉会 7月27日 午後 5時00分

（昼食休憩 午後0時10分～午後1時10分）

### 出席委員

|       |         |                |         |
|-------|---------|----------------|---------|
| 教 育 長 | 吉 田 茂   | 教 育 長<br>職務代理者 | 野 口 久 男 |
| 委 員   | 荒 木 明 子 | 委 員            | 渡 辺 律 子 |
| 委 員   | 山 口 文 平 | 委 員            | 東 宏 行   |

欠席委員 な し

### 説明のため会議に出席した者の職氏名

|                            |         |                                                    |         |
|----------------------------|---------|----------------------------------------------------|---------|
| 教育総務部長                     | 小 泉 隆 行 | 学校教育部長                                             | 青 木 元 秀 |
| 教育総務部<br>副 参 事 兼<br>教育総務課長 | 會 田 修   | 学校教育部<br>副 参 事 兼<br>学務課長兼<br>小中一貫校<br>整備室長<br>指導課長 | 磯 山 貴 則 |
|                            |         | 教育センター<br>所 長                                      | 佐 藤 泰 弘 |
|                            |         |                                                    | 菊 池 邦 隆 |
|                            |         | 指導課調整幹                                             | 二 瓶 剛   |
|                            |         | 指 導 課<br>主任指導主事                                    | 赤 塚 みゆき |

### 職務のため会議に出席した者の職氏名

|                |         |
|----------------|---------|
| 教育総務課<br>調 整 幹 | 鈴 木 理 香 |
|----------------|---------|

[illegible]

---

◎開会の宣告

**吉田教育長** それでは、これより7月の定例教育委員会会議を開会いたします。

本定例会に関し、12名の方から傍聴許可願が提出されておりますので許可します。また、会議中に、許可願が提出された場合は、同様に許可いたします。

〔傍聴人入室〕

**吉田教育長** ここで、本日の議事の進行についてお諮りいたします。

第33号議案 令和6年度使用小学校教科用図書の採択については、長時間の審議を要する議案であるため、通常の議案、協議事項及びその他報告が終了した後、審議に入りたいと存じますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** ご異議ないようですので、そのように進めさせていただきます。

(午前 9時30分)

---

◎第30号議案 「越谷市立小学校及び越谷市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則制定について」

**吉田教育長** それでは、第30号議案 越谷市立小学校及び越谷市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則制定について、学務課長から説明いたします。学務課長。

**磯山学務課長** それでは、第30号議案 越谷市立小学校及び越谷市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則制定について、ご説明いたします。

恐れ入りますが、会議要項の1ページをお開きください。

第30号議案 越谷市立小学校及び越谷市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則制定について。

越谷市立小学校及び越谷市立中学校の通学区域並びに就学すべき学校の指定に関する規則の一部を改正する規則を別紙のとおり制定するものとする。

令和5年7月27日提出。越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、小中一貫教育の効果的な実現を図るため、通学区域の一部見直しを行うことから、所要の改正を行う必要があるため、提案するものでございます。

次に、主な改正内容でございますが、資料、新旧対照表の1ページから3ページをご覧ください。今回の規則改正につきましては、前回の定例教育委員会会議でご報告させていただきましたとおり、越谷市立小中学校学区審議会から提出された答申内容を踏まえて改正するものでございます。

内容といたしましては、1 ページ下段にありますとおり、現在、大相模中学校の通学区域でありますレイクタウン五丁目の一部（12-2・14～37）を光陽中学校の通学区域に改めるものでございます。なお、3 ページにありますとおり、レイクタウン五丁目のうち（1～11、12-3～12-999、13）は、引き続き大相模中学校の通学区域となります。この改正に伴い、川柳小学校卒業生の進学先中学校は光陽中学校に統一されることとなります。なお、改正時期でございますが、令和6年4月1日から施行することとしております。

第30号議案についての説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

**吉田教育長** これより本案に対し質疑、討論を行います。

ご質問、またはご意見等はございますか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 1点だけ確認したいのですが、この学区を変更するにあたりまして、該当する通学区域の現在の大相模中1年生、2年生は、来年度は2年生、3年生になると思うのですが、その生徒さんへの配慮としてはどんなことを考えていらっしゃいますか。

**吉田教育長** 学務課長。

**磯山学務課長** 現在1年生が4名、2年生が4名の計8名の、現在大相模中学校に通学している生徒につきましては、個々の生徒、保護者のお気持ちに寄り添って、継続して大相模中に通学する希望につきまして最大限配慮していくことを考えているところでございます。

**吉田教育長** よろしいですか。

**野口教育長職務代理者** はい。

**吉田教育長** 他にございますか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですので、これより第30号議案を採決いたします。

本案は原案どおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** ご異議ないものと認め、本案は原案どおり可決いたしました。

---

◎第31号議案 「越谷市学校運営協議会委員の任命について」

◎第32号議案 「越谷市文化財調査委員の委嘱について」

**吉田教育長** 続きまして、第31号議案及び第32号議案につきましては、附属機関の委員の委嘱または任命に係る案件でございますので、一括して所管課長から説明した後、各議案に対する質疑、討論を行うことといたします。

第31号議案、指導課長。

**佐藤指導課長** それでは、第31号議案 越谷市学校運営協議会委員の任命についてご説明いたしま

す。

恐れ入りますが、会議要項の５ページをご覧ください。

第31号議案 越谷市学校運営協議会委員の任命について。

令和５年度越谷市学校運営協議会委員を次のとおり任命するものとする。

それでは、表に沿って選出区分、氏名、選出母体・役職等について申し上げます。また、任期は令和６年７月31日まででございます。なお、敬称については省略させていただきます。

令和５年度蒲生南小学校学校運営協議会委員。

２号委員、江戸ゆかり、ＰＴＡ本部役員、新任。

令和５年７月27日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、越谷市立蒲生南小学校の令和５年度学校運営協議会委員について、地域住民等の学校運営への参画を促進するため、新たに委員を任命する必要があることから、提案するものでございます。

続きまして、会議要項の６ページご覧ください。ご参考までに、今回ご提案させていただいた１名を加えた、令和５年７月27日現在の令和５年度蒲生南小学校運営協議会委員名簿（案）を掲載させていただきましたので、ご参照いただきたいと思います。

第31号議案についての説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**吉田教育長** 第32号議案、生涯学習課長。

**木村生涯学習課長** それでは、第32号議案 越谷市文化財調査委員の委嘱についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の７ページをお開きいただきたいと思います。

第32号議案 越谷市文化財調査委員の委嘱について。

越谷市文化財調査委員を次のとおり委嘱するものとする。

令和５年７月27日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、越谷市文化財調査委員が令和５年７月31日をもって任期満了となるので、その後任委員を委嘱する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市文化財調査委員会につきましては、越谷市内の文化財の保護に係る調査や審議をすることを目的としており、専門性が高いことから、委員の委嘱にあたりましては民俗や郷土の歴史、考古学など、それぞれの学識を有する方をお願いしたいと考えております。また、越谷市文化財調査委員は、越谷市文化財保護条例第４条により設置されており、委員の数は越谷市文化財調査委員に関する規則第２条により７名と定められております。任期は、同規則同条により２年と定められており、今回委嘱させていただく委員の皆様方につきましては、令和５年８月１日から令和７年７月31日までとなります。

それでは、名簿に沿って氏名、選出母体・役職等、任期のうち再任、新任の別の順に申し上げ

ます。なお、敬称については省略をさせていただきます。

板垣時夫、埼玉県文化財保護協会・副会長、再任。

加藤幸一、元埼玉県立越谷西特別支援学校・教諭、再任。

高崎光司、元埼玉県立越ヶ谷高等学校・教諭、再任。

橋本雄一郎、越谷市立平方小学校・教諭、再任。

林貴史、久喜市文化財保護審議会・委員、再任。

矢口孝悦、元羽生市教育委員会・事務局職員、再任。

秦野秀明、NPO法人越谷市郷土研究会・副会長、新任。

以上、7名の委員構成でございますが、男性が7名、女性が0名でございます。また、再任の方が6名、新任の方1名でございます。

第32号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**吉田教育長** これより本案に対し質疑、討論を行います。

はじめに、第31号議案 越谷市学校運営協議会委員の任命について、ご質問またはご意見等がございますか。

東委員。

**東委員** 新たに委員を任命する必要があるということなのですが、この理由を説明していただければと思います。

加えて、5名の委員になるのですが、PTAの本部役員が2名という形で、全体として保護者の割合が非常に高い構成になると思うのです。平成29年に法令改正があつて、この運営協議会についてはもう少し協働活動推進員、越谷市で言ったらコーディネーターになりますか、の活用を促すような形で法令改正が行われたのですが、この蒲生南小学校で、やはり保護者の割合を高くする理由というのが何かあるのかどうかということを含めてご説明いただければと思います。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** 蒲生南小学校は、今年度から校長が新たな校長に替わりました。校長が新たに学校運営をしていく中で、前任の校長からのアドバイス等も受けながら学校運営をしているところでございますけれども、その中で今回の江戸さんの参加が学校運営の充実のために必要だということとで、途中での推薦という形になりました。

保護者の割合が多いことについて、なぜなのか詳しくは、今の段階では把握はしていないのですけれども、学校として必要な方々をお願いしているということで聞いております。越谷市学校運営協議会規則第7条には1号委員から4号委員までおりまして、やはり東委員さんがおっしゃるようにコーディネーターを含め学校運営の充実ということを考えますと、委員構成の偏りが極端にならないように、バランスよく委嘱するということは一つの方法で、大事なことだと思います。校長会等を通して、そのバランスにも目を向けるよう話をしていきたいと思っております。



**吉田教育長** これは、別段学校側が拒否しているわけではないのですよね。

指導課長。

**佐藤指導課長** 拒否ということではなく、学校がバランスまで考えたかどうか分かりませんが、この方々5人でお願いしたいという思いである、ということでございます。

**吉田教育長** 手を挙げてくださった方がこれだけいたと、学校側としては解釈していたということですか。

**佐藤指導課長** はい、そのとおりでございます。

**吉田教育長** よろしいですか。

**東委員** 校長の申出であれば、それが一番よろしいと思います。ただ、全体的に今ご説明いただいたとおり、全国的にも埼玉県は多分3号委員ということになると思うのですが、協働活動推進員、あるいはコーディネーター比率が全国平均に比べてかなり低いのです。これは埼玉県の傾向として仕方ないのかと思うのですが、できるだけバランスよく学校運営が的確に行われるように、校長先生など通じて検討していただくように、今後お願いできればと思います。

**吉田教育長** 野口委員。

**野口教育長職務代理者** 関連してなのですけれども、PTA本部役員の方が2名いらっしゃるということで、この方々がいずれお子さんが卒業した後に、また学校運営に協力していただくということも一つの方法かと思っております。学校のこともよく分かっていて、PTAのことも分かっている方が、もう少し広い視野で、お子さんが卒業した後も学校運営に関わっていただけるといいのではないかと思います。その点を校長会を通して、学校運営協議会委員を任命する際には一つの視点として持っていただけるといいと思いました。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** 先ほど東委員さんがおっしゃったように、3号委員につきましては、確かに本市においても人数が多いわけではございませんので、このことにつきましては、野口委員さんからもご発言いただきましたとおり、校長会で話をしたいと思っております。

また、本課で学校応援コーディネーター研修会を行っております。その際にも、学校運営協議会のことを絡めながら話をしているところです。今年度も予定がございますので、話をさせていただき、管理職だけではなく教員に向けても浸透していくようにしたいと思っております。

また、江戸さんは、実は令和2年に南中学校で学校運営協議会委員をされておりまして、このときも保護者の立場だとお聞きしておりますけれども、そういった意味では学校応援団になり得る方であるので、校長先生にもその様子を再度聞きながら、3号委員という話もあるのかと思いますので、お話をしたいと思っております。

**吉田教育長** 学校運営協議会については、地域に開かれた学校ということから、地域と家庭と学校は一体となって子どもたちの学びを支えていく、そういう体制をつくっていかうというような趣

旨で立ち上げたと思いますので、お二人の委員さんからお話がありましたけれども、そういった体制を今後も引き続き普及していくようにということのご意見だったと思います。事務局としてもそのこと考えて、今後進めていくようお願いいたします。

学校教育部長。

**青木学校教育部長** ただいまお二人の委員さんからのご指摘は、本当にもっともだと感じております。やはり、私も現場で携わっていたときに、様々な方向からご意見をいただけることは、非常に有益だったと感じております。

少し難しかったと思ったところが、いわゆる任期が1年となっており、規則には連続3期までという規定がございまして、ちょうどこの学校も3期を終えて委員が入れ替わる時期と重なってしまったところがあります。学校応援コーディネーターについては、学校によって複数指定している学校もありますが、1名しか指定していない学校もあり、校長先生がいろいろなご苦勞をされながら人選されていると思います。ただ、協働活動に取り組んでいるのはコーディネーターだけではございません。いろいろな方が取り組んでいますので、いろいろな立場から、3号委員も含めて学校を応援していただける方を呼び込んでいく、そういう視点も持っていただきながら人選していただきたいと、校長会では次年度に向けてしっかりと啓発をしてまいりたいと考えています。

**吉田教育長** よろしくをお願いします。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** それでは、これより第31号議案を採決いたします。

本案は原案どおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** ご異議ないものと認め、本案は原案どおり可決いたしました。

続きまして、第32号議案 越谷市文化財調査委員の委嘱について、ご質問またはご意見等がございますか。

荒木委員。

**荒木委員** 委員の委嘱につきましては、このように進めていただけたらと思っております。間もなく越谷市デジタルアーカイブも公開となりますので、市民の文化財への関心も高まることと思います。委員の先生方には、引き続きよろしくお願いいたしますと思います。

**吉田教育長** デジタルアーカイブについて、生涯学習課長から何かありますか。

生涯学習課長。

**木村生涯学習課長** デジタルアーカイブにつきましては、先月の教育委員会会議の後、委員の皆様方にお時間をいただきまして、システムの概要についてご確認をいただき、ご意見をいただいた

ところでは。

現在、8月1日のシステム運用開始に向けて準備を進めております。システム導入にあたりまして、きちんと市民の皆様にも周知を行って、つくっただけで終わらすということではなく、その後の例えば学校教育での活用も含めて、文化財調査委員の方のご意見もしっかり伺いながら、より有効に活用していけるように取り組んでまいりたいと考えております。

**吉田教育長** アーカイブの活用についても、調査委員会等で協議するような場面を設けるといふことでよろしいですか。

生涯学習課長。

**木村生涯学習課長** おっしゃるとおりでございます。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** これより第32号議案を採決いたします。

本案は原案どおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** ご異議ないものと認め、本案は原案どおり可決いたしました。

---

#### ◎協議事項 「令和5年度越谷市教育費補正予算について」

**吉田教育長** 続きまして、協議事項に入ります。

令和5年度越谷市教育費補正予算について、教育総務部長から説明いたします。

教育総務部長。

**小泉教育総務部長** それでは、令和5年度越谷市教育費補正予算の要求内要についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、別冊の令和5年度越谷市教育費補正予算について、をご覧ください。

まず、歳入についてご説明いたします。3ページの表の一番下にごございます歳入合計欄をご覧ください。教育委員会に関連する歳入の要求につきましては、今回1,808万5千円を追加し、補正後の総額は42億6,094万9千円となります。

歳入の内容でございますが、8ページ及び9ページをご覧ください。今回歳入の要求は、教育総務部のみでございます。生涯学習課ですが、14款国庫支出金、2項国庫補助金、5目教育費国庫補助金につきましては、公民館におけるプログラミング教室及びデジタルアーカイブ操作研修会の開催に係る情報通信技術講習事業費補助金10万円を追加します。

次の21款市債、1項市債、6目教育債につきましては、日本文化伝承の館こしがや能楽堂における空調機交換工事及びLED化改修工事に係る日本文化伝承の館整備事業債1,650万円を追加します。

次に、スポーツ振興課ですが、20款諸収入、6項雑入、1目雑入につきましては、その他雑入として、市主催のスポーツ大会における怪我に対する、市民総合災害等補償金8万5千円を追加します。

次に、図書館ですが、21款市債、1項市債、6目教育債につきましては、図書館における水銀灯LED改修工事に係る図書館整備事業債140万円を追加します。

続いて、歳出の要求でございますが、戻りまして5ページ下段の教育費に係る歳出合計欄をご覧ください。今回、3億4,738万9千円を追加し、補正の総額は137億5,353万7千円となります。

歳出の主なものについて、ご説明申し上げます。10ページ及び11ページをご覧ください。

はじめに、教育総務部の要求でございます。

生涯学習課ですが、6項社会教育費、1目社会教育総務費の文化振興事業につきましては、日本文化伝承の館こしがや能楽堂に係る施設改修工事費として2,210万円を追加します。また、3目公民館費のその他公民館費につきましては、市主催の行事における怪我に対する補償金として4万5千円を追加します。

次に、科学技術体験センターですが、1項教育総務費、5目科学技術体験センター費の科学技術体験センター事務費につきましては、会計年度任用職員の配置に係る会計年度任用職員報酬等として合わせて191万4千円を追加します。

次に、スポーツ振興課ですが、7項保健体育費、3目体育費のその他体育費につきましては、市主催のスポーツ大会における怪我に対する補償金として、歳入と同額の8万5千円を追加します。

次に、図書館ですが、6項社会教育費、4目図書館費の施設管理費につきましては、図書館に係る施設改修工事費4,304万円を減額します。

12ページ及び13ページをご覧ください。次に、学校教育部の要求でございます。

学校管理課ですが、2項小学校費、1目学校管理費のうち、施設管理費につきましては、小学校施設の管理に係る植木管理等委託料の追加に加え、施設改修に係る修繕料、設計委託料及び改修工事費として合わせて1億7,754万円を追加します。また、備品等整備事業につきましては、令和6年度の児童数及び学級数の増加に伴う消耗品費等として753万円を追加します。

次の3項中学校費、1目学校管理費のうち、学校活動運営費につきましては、中学校の学校活動運営に係る修繕料として47万円を追加します。また、施設管理費につきましては、中学校施設の管理に係る植木管理等委託料の追加に加え、施設改修に係る修繕料、設計委託料及び改修工事費として合わせて1億746万円を追加するほか、備品等整備事業につきましては、中学校備品に係る視聴覚機器購入費及び学校用備品購入費として合わせて330万円を追加します。

14ページ及び15ページをご覧ください。次に、学務課ですが、1項教育総務費、2目事務局費の教育活動支援事業につきましては、特別支援教育支援員等の配置に係る会計年度任用職員報酬

等として合わせて430万円を追加します。

次に、指導課ですが、1 項教育総務費、3 目学校教育指導費の外国語指導事業につきましては、外国語指導委託料の契約額の確定に伴い1,090万円を減額いたします。また、学校教育支援事業につきましては、学校司書に係る会計年度任用職員報酬等として合わせて138万円を追加します。

次に、給食課ですが、7 項保健体育費、2 目学校給食費のうち学校給食事業につきましては、学校給食事業に係る消耗品費及び調理用機器購入費として合わせて3,759万円を追加します。また、施設管理費につきましては給食センターの施設管理に係る燃料費の追加に加え、修繕料及び改修工事費として合わせて2,646万円を追加します。

恐れ入りますが、6 ページにお戻りください。(3) 債務負担行為でございますが、追加が7 件ございます。まず、日本文化伝承の館空調機交換改修工事費及び図書館空調機改修工事費につきましては、日本文化伝承の館こしがや能楽堂及び図書館における空調機の改修工事のため、令和5 年度から令和6 年度を期間として債務負担行為を設定するものでございます。

なお、その他の5 件の債務負担行為につきましては、小中学校の校舎及び設備の修繕並びに改修事業について、令和5 年度から令和6 年度を期間として債務負担行為を設定するものでございます。

続きまして、7 ページをご覧ください。(4) 地方債の変更ですが、歳入で説明いたしましたとおり、日本文化伝承の館整備事業及び図書館整備事業に伴い、市債の限度額を表のとおり変更するものでございます。

9 月補正予算の要求に係るご説明は以上でございます。ご協議のほどよろしくお願い申し上げます。

**吉田教育長** これより協議に入ります。

ご質問、またはご意見等はございますか。

山口委員。

**山口委員** 13ページの3 中学校費、1 学校管理費、003施設管理費は、中学校施設の改修に係る修繕費、設計とかのことなのですけども、こちらの詳細を教えてください。

**吉田教育長** 学校教育部長。

**青木学校教育部長** それでは、中学校費の施設管理費のうち、中学校施設改修費につきましてご説明をさせていただきます。こちらにつきましては、修繕料として、平方中学校の非常階段の塗装修繕、外灯漏電修繕、光陽中学校浄化槽制御盤修繕、新栄中学校屋内運動場天井鉄骨塗装修繕、設計委託料といたしましては、中学校のLED化工事設計の業務委託でございます。校舎改修工事費といたしまして、富士中学校の屋上防水改修工事、北中学校校舎雨樋改修工事、南中教室ロッカー改修工事、屋内運動場改修工事費といたしまして、北陽中学校の柔剣道場屋根改修工事、新栄中学校武道場災害復旧工事、また、校庭改修工事費といたしまして、栄進中学校第二グラウ

ンド防球ネット改修工事を予定しているところでございます。

**吉田教育長** 山口委員。

**山口委員** 武道場の災害復旧に係るものが大きいと思うのですけれども、これの具体的な話をもしできれば教えていただければと思います。

**吉田教育長** 学校教育部長。

**青木学校教育部長** ご承知のとおり6月2日から3日にかけての大雨の際に、新栄中学校の武道場が、いわゆる床上浸水という形で被害を受けております。現状を確認したところ、床の段差、またささくれが発生しており、特に武道場ですので、素足ということもあり、怪我も心配ですので、こちらを修繕していくため、床の張り替えを計画しております。これにつきましては補助金等もありますことから、どこまで補助金対象となるかも含めて、一番簡単な修繕方法は床だけを張り替える、また全て床を上げて今後浸水被害を受けないようにするなど様々なことがありますけれども、財政課と今後相談をしてみたいと考えております。

**吉田教育長** 新栄中学校の剣道場については、大吉の調節池の隣にある学校ですので、一段と低い、見てすぐ分かると思うのですけれども、前回も洪水、大雨で剣道場が被害を受けたわけですが、今回2回目ということで、できれば、今部長からの説明にあったような形でこれから工事を進めていきたいと思っておりますけれども、それはここで確定はできませんので、これからそういう形で進めていくということでご理解いただければと思います。よろしいでしょうか。

他にございますでしょうか。

**渡辺委員**。

**渡辺委員** 14ページの教育センター、教育総務費ですけれども、そこに超過勤務手当で800万の要求額がありますが、これ超勤務手当で800万というのは例年あることなのか、働き方改革の方向からすると少しどうなのかなと思うので、もう少し具体的に教えていただければと思うのですけれども。

**吉田教育長** 教育センター所長。

**菊池教育センター所長** 今回の要望でございますが、人事に関連する業務の振り分けによる業務量が増えたこと、あと学習用タブレット端末の管理、修繕、問合せの対応、オンライン研修への変更準備、保護者連絡アプリやA I ドリルの導入、学術情報ネットワーク S I N E T の接続、就学相談及び、教育相談件数の増加等々ございまして、こちらを勘案し、越谷市職員の給与に関する条例及び同規則にのっとり、また労働基準監督署に届け出る時間外労働、休日労働に関する協定届、いわゆる36協定届の範囲内で要望するものでございます。年度当初、こちらの合計額を要望したところでございまして、今回不足する額を要望するものでございます。

しかしながら、渡辺委員さんがおっしゃるとおり、管理職として職員の健康を守るという視点から、職員の健康を守り、元気に仕事ができるということは、学校現場の教員や子どもに波及することによってございまして、常に精選できる仕事はないか、あるいは何か変えることで業務が減ら

せないかという視点を持って、今後も責任を持って取り組んでいきたいと考えているところでございます。

**吉田教育長** 渡辺委員。

**渡辺委員** 仕事量が増えるというのも、今お話を聞いているともっともだなとは思いますが、何より職員の方の健康のことを考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

**吉田教育長** 教育センター所長。

**菊池教育センター所長** 今お話があったことを常に考え、管理職は3名が連携しながら、声かけや、日頃の業務見届け、変更すべきことに対して柔軟に対応していきたいと思ひますし、学校教育部長、そして教育長への報告も逐一行ってまいります。

**吉田教育長** 相談業務等増えていく一方という現実がある中での対応ということで、やらなければいけない、もう一つは人事の関係という話がありましたけれども、仕事の分担等もしながらなのですけれども、やらざるを得ないところはやっていかなければいけないというところがあります。健康管理も十分配慮しながらやっていくように、ぜひお願いします。よろしいですか。

他にございますでしょうか。

〔発言する人なし〕

**吉田教育長** 他になければ、以上を踏まえて進めてください。

---

◎その他 「越谷市立小中一貫校整備PFI事業の落札者決定について」

**吉田教育長** 続きまして、その他の報告事項に入ります。

越谷市立小中一貫整備PFI事業の落札者決定について、学務課長から説明いたします。

学務課長。

**磯山学務課長** それでは、越谷市立小中一貫校整備PFI事業の落札者決定につきまして、ご報告させていただきます。

恐れ入りますが、会議要項15ページをお開きいただきたいと思います。当該事業の落札業者につきましては、総合評価方式による一般競争入札により決定いたしました。

結果でございますが、会議要項にございますように株式会社ナカノヤを代表企業とし、16社の構成企業、うち13社が市内企業となります。1社の協力企業、計18社で組成したナカノヤグループが落札業者となっております。落札価格でございますが、148億2,963万626円で、落札率85.4%でございました。

また、冒頭申し上げましたとおり、総合評価一般競争入札としておりますので、学識関係者等5名で構成されましたPFI事業者選定審査会において事業提案書を審査し、性能評価点を算出するとともに、入札価格を評点化したものを加算いたしまして、総合評価点を算出いたしました。その結果が、資料下段にございます(3)の選定審査結果でございます。

続きまして、16ページをご覧ください。今後でございますが、7月28日に基本協定の締結を行い、8月9日に仮事業契約の締結、9月定例議会の議決後に本契約の予定となっており、学校建設に向けた業務が本格的に始動する運びとなっております。

次に、資料中段の校舎概要でございますが、こちらは事業者より提案いただきました校舎概要の抜粋でございます。まず、(仮称)蒲生学園でございますが、構造は鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、階数は地上4階建て、敷地面積は約2万9,353平方メートル、建築面積は6,689.48平方メートル、延べ面積は2万1,094.93平方メートル、施設の主な特徴は記載のとおりでございます。

続きまして、17ページをご覧ください。次に、(仮称)川柳学園でございますが、構造と階数は(仮称)蒲生学園と同様、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、階数は地上4階建てになります。敷地面積は3万1,166平方メートル、建築面積は3,141.70平方メートル、延べ面積は8,004.20平方メートル、施設の主な特徴は記載のとおりでございます。

なお、財政負担の削減効果、いわゆるVFM値は、資料にございますように市が直接実施する場合とPFI事業として実施する場合とでは、19.9%の削減が見込まれるものと思われま

す。続きまして、会議要項18ページから23ページまでは、(仮称)蒲生学園と(仮称)川柳学園の施設イメージ図でございますが、今後事業者と調整を図っていく段階で変更が生じていくことが想定されますので、ご参考にしていただければと思います。

なお、今後の予定におきまして、先ほどご報告させていただきましたとおり、9月定例市議会に契約締結における議案を提出いたしますので、令和5年8月定例教育委員会会議において報告をさせていただきますと存じます。

雑駁な説明で大変恐縮ではございますが、越谷市立小中一貫校整備PFI事業の落札者決定についての報告は以上でございます。

**吉田教育長** ただいまの説明に対して、ご質問またはご意見等はございますか。よろしいですか。

〔発言する人なし〕

**吉田教育長** なければ、この件については以上とします。

---

#### ◎その他 「越谷市中学校部活動の地域移行について」

**吉田教育長** 続きまして、越谷市中学校部活動の地域移行について、指導課長から説明いたします。

指導課長。

**佐藤指導課長** それでは、越谷市中学校部活動の地域移行についてご報告をいたします。

恐れ入りますが、会議要項の24ページをご覧ください。現在、国や埼玉県から学校における部活動の地域移行に関する方針等が示されており、本市においても部活動の地域移行に向けた取組を進める必要がございます。本日は、本市における現段階での部活動の地域移行に係る現状と今後の方向性について、報告させていただきます。



はじめに、国が策定したガイドラインについてご説明をさせていただきます。恐れ入りますが、会議要項の28ページをご覧ください。こちらは、令和4年12月に国が策定した学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインであり、令和5年度から7年度までの3年間を改革推進期間として、まず休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行を、地域の実情に応じて、可能な限り早期に実現するよう示されております。

続きまして、会議要項の29ページをご覧ください。こちらは、国のガイドラインを踏まえ埼玉県が策定した埼玉県地域クラブ活動の整備・充実に係る方針です。この方針では、令和5年度から令和7年度の3年間をステージⅠ「活動環境整備期間」として各市町村が休日の地域クラブ活動の実証事業を行い、活動環境の整備を進めることとしております。さらに、令和8年度から令和10年度の3年間をステージⅡ「活動環境定着期間」として各市町村が地域の実態に応じて、休日の地域クラブ活動を段階的に拡大し、定着を図ることとしております。

恐れ入りますが、会議要項24ページにお戻りください。先ほど説明させていただきました国や埼玉県の方針等を踏まえまして、本市における部活動の地域移行につきまして、はじめにこれまでの経緯でございますが、教育委員会では本市における部活動の地域移行について協議、検討するため、部活動地域移行検討会を実施したほか、県のスポーツ振興課や本市をホームタウンとするプロバスケットボールチームの越谷アルファーズと連携し、地域移行に係る打合せを重ねてまいりました。その上で、先行事業として越谷アルファーズとの連携で、バスケットボールの面から部活動の地域移行の検討を進めているところでございます。なお、これまでの経緯の詳細は上段に記載のとおりでございます。

今後につきましては、26ページ及び27ページにもありますが、新栄中学校、北陽中学校、平方中学校及び北中学校の4校において、男女バスケットボール部を対象とした地域クラブ活動モデル事業を立ち上げ、実施していく予定でございます。その後、9月を目途に児童生徒、保護者及び教員を対象にアンケートを実施し、今後の教育委員会会議において結果をご報告させていただく予定でございます。

恐れ入りますが、25ページにお戻りください。本市における部活動の地域移行に係る方針や指針、具体的な計画を協議し、決定する組織として（仮称）越谷市部活動地域移行推進会議の立ち上げを予定しており、今年度は推進会議の立ち上げに向けて懇話会を開催する予定でございます。部活動の地域移行の状況につきましては、今後も教育委員会会議において報告してまいります。

越谷市中学校部活動の地域移行についてのご報告は以上でございます。

**吉田教育長** ただいまの説明に対して、ご質問またはご意見等はございますか。

東委員。

**東委員** 今回は、バスケットボールのみということだと思のですが、その他の例えば運動系の部活動とか、国の指針だと文化芸術分野なども含んでいるのですが、それらの試行というのは今後

何かやっていくという計画はあるのでしょうか。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** まず、バスケットボールにつきましては、先ほど申し上げた4校で、モデル事業をするというところでございます。この4校での実施が、ほかの地域に広めることができるかどうかも含めて、今後検討していこうと思っております。26、27ページにありますように、モデル事業につきましては、土曜日、日曜日のどちらかで月1回の試行になります。部活動の地域移行になりますと、月1回ではなくてほかの土日も関係してくることから、まず試行してみた上でどうなるのかというのを検討したいと思っております。それがご質問の答えの1点目でございます。

2点目ですけれども、ほかの部活動についてでございますが、今のところ何の部活で考えているとか、そういったことを申し上げるような状況にはなっておりません。バスケットボールは、越谷アルファーズとの連携が図れますけれども、他については指導者がいるかどうかということも探っていかなければならない部分もございます。今申し上げたように部活動を視点としてやっていく方法もあるでしょうし、他市町によっては学校を拠点として、まずモデル事業を立ち上げようというやり方をされているところもありますので、そういった先行事例も見ながら、これから検討会、それから推進会議等で決めていきたいと思っております。先がはっきりしているものではないのですけれども、少しずつ進めてまいりたいと思っております。

**吉田教育長** これについては、大会運営とか、保険はどうするのだとか、あるいは参加費用はどうするのだとか、指導者の確保はどうするのだとか、あるいは受入れ団体、受入れ母体、そういうものをどう設定するのだとか、様々な課題が山積しておりました。ようやく国とか県のほうで協議会等を立ち上げながら方針がある程度出てきましたので、先ほどの説明がありましたけれども、今日の資料の最後のところに埼玉県地域クラブの整備・充実に係る方針がやっと出てまいりましたので、このステージⅠに向けて今取り組んでいるというところを申し上げたところでございます。

協議会については今後立ち上げていくことになろうかと思うので、そこで詳細について検討していくということですか。

指導課長。

**佐藤指導課長** おっしゃるとおりでございます。

**吉田教育長** 東委員。

**東委員** 過去にもいろいろなことをやりながら、なかなかうまく進まないで、今回スポーツ庁主導で始まったのですけれども、越谷のバスケット、やはりアルファーズは特徴的なものなので、ここから試行してみるというのは一つ突破口になると思うので、とてもいい取組だなと感じています。ただ、規模が大きくなってきたときに、指導者を含めて中学校の体育館だけでできるのだろうか、指導者派遣を各中学校に、ってかなり難しいと思うのです。国のガイドラインに公共施

設を地域クラブ活動で使用するというようなことが書かれていまして、いろいろな部活動を一気に広げていくとなると、中学校の体育館だけでは恐らく足りないだろうと思うのです。今後、公共施設の中で使えそうなものというのを改修等の際には、部活動の地域移行というのを踏まえた視点で進めていく必要があるのではないかなというのが1点目の私の意見です。

2点目が、国で文化芸術分野ということを挙げていて、今回はバスケットボールですが、越谷市はやはり日本文化伝承の館こしがや能楽堂とか、結構文化芸術関係についても特徴的なものを持っているので、何かそれが部活動の地域移行に活用できるような点があれば、検討してみてもいいのかなというふうに思うのです。今後検討していただければと、意見として述べておきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** 貴重なご意見を2ついただきました。

1つ目の公共施設の利用については、確かに合同部活動という形になったりしますと学校の枠を超えてという形になり、学校だけを使うということではなくて、その中間点とかという話にもなってくると思いますので、そういったことについては本課だけではなくて、関係の課も含めて地域移行の視点を持って利用のことを考えていかなければと思います。ありがとうございます。

2つ目の芸術文化ですけれども、現段階では休日の部活動の地域移行になっておりまして、実は現状の中学校の部活でいうと、土日は文化部は稼働しないというか、やっていない部が多いものですから、この次の段階になるかと思っております。今も地域の方々にたくさん部活動の外部指導者ということで入っていただいていますので、その方々と連携しながら、先々見ていきたいと思っております。

**吉田教育長** 野口委員。

**野口教育長職務代理者** 私も今の話を聞いていて感じたのですけれども、越谷市の場合はやはり文化的な部分については、比較的移行しやすいのではないかと感じております。運動につきましては、やはり中体連との関係とかいろいろ難しい部分が将来出てくるだろうと思いますので、文化系について突破口にするのも一つの方法かと思いました。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** 先ほど見ていただきました協議会にあたる推進会議は、仮でまだ稼働しているわけではないのですけれども、そちらに中体連の方にも入っていただいて、いろいろご意見をお聞きしたいと思っておりますので、そういう形で連携をしっかりと図ってまいりたいと思います。

**吉田教育長** これから立ち上げる協議会の中に文化連盟等も入っておりますので、文化面での部活動の移行についても俎上に上ると考えてよろしいですか。

**佐藤指導課長** はい。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 今年度のモデル事業として早速行われるわけですが、要項を読んでいまして気になったところといたしまして、27ページの⑥のところですが、「生徒が活動中に怪我をした際には、応急処置は会場にて行いますが、医療機関への搬送は保護者にてお願いします」となっていまして、フローチャートなどはこれから作成する予定ですか。

**吉田教育長** 指導課長。

**佐藤指導課長** フローチャートは現段階で用意しているものはございません。またフローチャート型になるかどうかは分かりませんが、これだけでは分かりにくいと思います。もう少し分かるようにできればと思っております。これは、あくまでも本当に緊急を要するものについては、救急搬送するということになりまして、保護者の方に医療機関への搬送というのは、つまり、活動している最中に軽いというのは判断がなかなか難しいところですが、軽い怪我をしてしまったとか、気持ち悪くなってしまったとか、そういった部分について保護者の方に連絡をさせていただいて、ということになります。というのは、想定している会場までの移動は、子どもたちが恐らく自転車での移動という形になるものでございまして、怪我や気持ち悪くなった場合の安全確保となりますと、やはり保護者の方に連絡を取って迎えに来てもらうということが必要になってまいりますので、このような書き方をさせていただいています。少し分かりにくい部分が多うございますので、修正したいと思っております。

**吉田教育長** これについては軽傷に見えても、例えば首から上の事故なんかについては後日大きな事故につながる、そういう危険性もありますが、十分慎重にお願いしたいと思えます。

**佐藤指導課長** はい、よろしくお願いします。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

〔発言する人なし〕

**吉田教育長** なければ、以上を踏まえて進めてください。

---

### ◎第33号議案 「令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」

**吉田教育長** 続きまして、第33号議案 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について審議を行います。ここで事務局職員の入替えを行います。

なお、教育委員会会議に教科書採択担当である赤塚みゆき主任指導主事を参加させたいと考えています。教育委員の皆様におかれましては、赤塚主任指導主事の教育委員会会議への参加についてご了承ください。

よろしくお願いします。

それでは、入替えをお願いします。

〔執行部入替え〕

**吉田教育長** それでは、第33号議案 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について、指導課長から説明いたします。

指導課長。

**佐藤指導課長** それでは、第33号議案 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について、ご説明を申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の9ページをご覧ください。

第33号議案 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について。

令和6年度使用小学校教科用図書を別紙のとおり採択するものとする。

令和5年7月27日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、小学校教科用図書の採択替えに伴い、令和6年度使用小学校教科用図書を採択する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市立小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び越谷市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第3条の規定により、本市教育委員会で行うこととなっています。

恐れ入りますが、11ページをお開きください。今年度採択する小学校教科用図書は、採択一覧表でお示ししましたとおり14種目でございます。今回義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、教科用図書の採択が4年を経過することから実施するものでございます。なお、採択された教科用図書につきましては、令和6年度から4年間の使用になります。

採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領に基づき行います。はじめに、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行い、続いて教育長及び教育委員の皆様からの質疑にお答えいたします。その後、教育長及び教育委員の皆様でご協議いただいた後、採択をお願いいたします。

第33号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

**吉田教育長** それでは、これより教科用図書の審議を行います。

審議に入る前に、委員の皆様にお諮りいたします。採択の方法ですが、種目ごとに全部の教科用図書発行者について、私及び委員がそれぞれ5段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合計が最も高い教科用図書発行者を採択することとすることにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** ご異議ないものと認めます。

ここで、傍聴人の方にお知らせいたします。傍聴の心得にあるように、議案の進行を妨げるよ

うな言動はお控えいただきますようお願いいたします。

静謐な会議の進行にご協力をお願いいたします。

はじめに、算数の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

**吉田教育長** 算数の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

**武藤選定委員** それでは、算数の教科書について説明させていただきます。

発行者は全部で6社となっています。それぞれのよさにつきましては調査報告書にまとめさせていただきましたが、それだけではお伝えしづらい各社の特徴につきまして、実際に見ていただきながら説明させていただきます。

まず、教科書の製本の違いについて、1年生の教科書をご覧ください。東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版は、1年生の1冊目の教科書は中とじという形をとっています。算数ブロック等を使うときに、ずれないでぴたっと開く形の教科書を4社が採用しています。また、学校図書は、一般的な教科書よりも四角く、紙面上大きくゆとりのある教科書を使っています。最後に教育出版ですが、ほかの5社が全て分冊化なのですが、教育出版の1年生の教科書は一冊にまとめています。

続いて、内容について説明させていただきます。6年生の教科書を使って説明します。東京書籍は115ページ、大日本図書は82ページ、学校図書は102ページ、教育出版は98ページ、最後の啓林館は120ページをお開きください。

グラフの扱いについて各社の特徴が出ていますので、順次説明させていただきます。

はじめに、東京書籍です。東京書籍では、グラフの読み取りから事象を分析する学習をしています。その後、116ページで中学校のグラフの内容を紹介し、188ページから195ページでグラフの特徴や分析を学習しています。

続いて、大日本図書です。大日本図書は、グラフの読み取り後にグラフの特徴について、その単元ですぐ学習をし、84ページのように活用することを目的とした学習に取り組んでいます。

続いて、学校図書です。学校図書は、グラフの特徴について学び、その後、212ページにてデータを活用する学習をしています。

続いて、教育出版です。教育出版は、グラフの読み取りを行った後、100ページでグラフを活用する問題を実施し、その後、206ページの問題を解きながらグラフの特徴を理解するという流れになっています。

続いて、啓林館です。啓林館は、グラフを読み取らせた後、121ページのウの問題で正しい、正しくない、このグラフから分からない問題を設けて特徴を理解させています。その後、123ページの振り返ろうで、データの特徴に合ったグラフを使うことを促しています。

続いて、日本文教出版です。日本文教出版は、グラフの読み取りを学んだ後、241ページの6年生のまとめの中でグラフの特徴を理解させる構成になっています。

グラフの読み取り方は、各社アプローチがそれぞれ特徴的になっていますので、このような説明をさせていただきました。

次に、問題解決の構造について、各教科書巻頭に工夫しながら簡潔に表現していますので、6年生の教科書を使って説明させていただきます。東京書籍は4ページから5ページ、大日本図書は6ページから7ページ、学校図書は2ページから3ページ、教育出版は7ページから9ページ、啓林館は4ページから7ページ、日本文教出版は2ページから5ページとなります。

表現の仕方は異なりますが、それぞれが問題の把握の仕方、課題の設定の仕方、見通し、自力解決、自分で解くこと、を促しています。また、練り上げ、友達と意見を交換しながらさらなる学びを進めること、まとめについて、具体的にどのようにすればいいのか説明しています。各社の表現は違いますが、算数の授業で行われる問題解決的な学習について、このような授業を展開していけばいいということを児童に的確に表現しています。

次に、資料については、どの教科書も具体的な操作活動をするを積極的に取り入れています。また、動画等デジタル教科書やQRコードを使って自由に見られるようになるように各社が工夫しています。この点については、各教科書に大きな違いはございません。

また、3表記・表現についても、どの教科書もユニバーサルデザインを取り入れ、多様性を意識した表記・表現となっており、個人の特性や価値を尊重するように配慮しています。この点も、教科書に関しては大きな差はございません。

最後の総括についても、先ほど説明をさせていただきましたが、どの教科書も主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、児童に発言を促すような紙面構成になっています。児童が自ら考え、深めることができるよう配慮されています。

教科書の説明については以上です。

**吉田教育長** ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

東委員。

**東委員** 各教科書の特徴は分かったのですが、選定委員ではどの教科書を推薦するのか、どんなふうにまとめたのか、教えていただければと思います。

**佐々木選定委員長** 委員長の私から、説明をさせていただきます。

選定委員会では、調査報告書、今お話がありました学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議の後、選定委員16名が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍が80点、4番、大日本図書が50点、11番、学校図書が52点、17番、教育出版が49点、61番、啓林館が59点、116番、日本文教出版が46点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に80点の東京書籍、59点の啓林館、52点の学校図書を推薦いたします。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 選定委員会では、どのような話題が出ましたでしょうか。

**武藤選定委員** 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、教科書を見て問題の解き方など確かめる方法の工夫として、各社、考え方がきちんと掲載されており、1時間の思考の流れが分かりやすくなっていること。

2点目は、中学校の数学とのつながりの工夫について、目次やその単元がどの学習とつながっているかを示したり、6年生の巻末に中学校で学ぶ内容が記載されたりと、このような内容が出ました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのか、また、その理由について教えていただきたいと思います。

**武藤選定委員** 学校からの推薦についてご報告させていただきます。

東京書籍を推薦する学校が最も多く28票、次いで啓林館が8票、学校図書が6票という結果でした。

推薦理由としましては、東京書籍では系統性が考慮され、情報が整理されている。問題や解決の道筋が捉えやすい内容となっている。大日本図書では、年間1冊の教科書にまとまっていて、既習を振り返りやすい。学校図書では、算数における見方・考え方が折込式でできており、毎時間どのページを見ても開いて見られるようになっている。身につけたことを普段の生活に生かそうとする問題や資料がたくさんある。教育出版では、図が使用者に読み取りやすい工夫がなされている。啓林館では、めあて、まとめが明記されており、学習の流れが分かりやすい。色づかいがやさしく、項目の色分けがまとまって見やすい。日本文教出版では、数値やマス目が工夫されていて、数直線など書き込みやすい等の意見がございました。

**吉田教育長** よろしいですか。

**渡辺委員** はい、ありがとうございました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 選定委員会では日常生活に算数を生かすという視点では、各社どんな工夫



があるか、どのような話が出たのか教えていただきたいと思います。

**武藤選定委員** それでは、具体的な教科書を使って説明させていただきます。

まず、東京書籍の1年生の2の102ページ、または72ページをご覧ください。どちらの問題も、日常生活に関連した場面設定ができています。このように東京書籍では、各学年随所に示されています。

続いて、大日本図書の2年生の102ページ、または7ページをご覧ください。学習したことを生活に生かした場面や、考え方をどのようにすればいいかが、紙面上に示されています。

続いて、学校図書の3年生の上の36ページをご覧ください。単元の導入問題では、「？を発見」のページを設けて、日常生活や算数の中から感じる疑問、そのようなものから学習が始まるようになっていきます。

続いて、教育出版の4年生の下46ページをご覧ください。単元末に4コマ漫画を利用し、学習したことが日常生活にどのように取り入れられるか、また漫画で学んだ内容のよさを振り返るような、そのような工夫がされています。

続いて、啓林館の6年生の238ページをご覧ください。学んだ算数がどのようにつながっていくか、インタビュー記事で具体的に示してあります。日常生活にどう生かしていいかを示唆するインタビュー記事が載っています。

最後に、日本文教出版の5年生の254ページをご覧ください。算数の楽しさが実感できるよう、算数を使って物事を考えるような問題が充実しています。このことで算数のよさが感じられる、そのような展開になっています。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 選定委員会には、1号委員として保護者の方がいらっしゃいましたが、どのようなご意見が出たのでしょうか。

**佐々木選定委員長** 1号委員からは、理解の差がある教科だと思うが、理解のゆっくりな子への指導というのは、今まで重視されてきたのではないかと。ただ、算数が好きで理解が早い子への工夫というのも、ぜひやっていただきたいのだが、とのご意見がありました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 大日本図書は、2年生以上は全て各学年一冊ですね。そうすると、低学年でもかなりの重さがあると思うのです。他社は、大体4年生まであるいは5年生までは、分冊になっているのですけれども、学校としてはどちらがいいとか、ございますでしょうか。例えば、一冊にまとまっていたほうがいいのか。

**佐々木選定委員長** 考え方によると思います。教科書をランドセルで持ち帰りをさせるという発想

に立つと、やはり分冊のほうが子どもにとっての負荷が下がるわけですが、内容面の系統性や流れを見て、前のところを振り返って見直しするというような学習を考えるとときには、逆に一冊になっていることのメリットというのもございますので、一長一短があると考えられると思います。どちらがというのは、それぞれの教員の考えによっても変わってくる部分があるのではないかと思います。

**渡辺委員** ありがとうございます。

**吉田教育長** 他にございますか。

〔発言する人なし〕

**吉田教育長** なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

先ほど選定委員から、選定資料にある4つの調査の観点に基づいて、分かりやすいように教科書を例にとって説明があったということでよろしいですね。

〔「はい」と答える者あり〕

**吉田教育長** 調査の観点1の内容について、ご意見がございましたらお願いいたします。

渡辺委員。

**渡辺委員** 保護者の方から、今までは理解のゆっくりな子が重視されてきたように思われるので、理解の早い子に対しても工夫があるとよいという意見があったのですが、各教科書を見てみましたら、東京書籍の補充問題が236ページから始まっているのですが、こちらはその点では少し難しい問題と似ている問題とに分かれていて、よいなと思いました。

また、日本文教もやはり補充問題がございまして、251ページからチェック、チャレンジ、ジャンプという形で算数マイトライが3段階に分かれておりまして、習熟度別クラスというのですか、少人数制のクラスで使うには適していると思いました。

また啓林館ですが、241ページでは、学びのサポートという形で、いわゆる補充問題が用意されていて、こちらは単元の準備段階というのでしょうか、新しい学習の前に準備をしておく問題が入っていて、面白いなと思いました。

学校図書の231ページの、もっと算数という補充問題も単元別になっていて、さらに中学校へのかけ橋ということでの補充問題があって、非常によいと思いました。いずれにしても、苦手な児童への配慮、もしくは理解の進んでいる子どもに対しても配慮ができていたと感じました。

**吉田教育長** 内容について5つの観点でそれぞれ分析がされているかと思うのですが、いかがでしょうか。渡辺委員さんのご意見に対してでも構いませんけれども。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** それでは、私が感じたことも含めてお話しさせていただきます。各社とも既習事項を生かして未習の問題に取り組んでいくとそれを解決する、という問題解決学習が定着

しているのだなということ、教科書を見ると、これが求められている子どもたちの資質だなということがよく分かりました。大変すばらしいことだと思います。

分数割る整数のところを見てみたのですけれども、5分の4割る2という問題があり、5分の4割る2は別に分母に掛けなくても、分子だけで4割る2でできてしまいます。その後に、5分の4割る3ではということになると、4割る3ができないので、さあどうしようかということで、そこに新たな問題が発生して、既習事項を生かして解決していくという展開です。各社とも、そのような展開で問題解決学習を展開していくという状況なのです。

大日本図書を見たのですが、大変丁寧 to いろいろな方法を出していて、見方としてはいいなと思いました。特に6年生の36、37、38、39ページに出ているのですけれども、大変多様な方法が出てきていいなと思いました。ただ、現場の声を聞いてみますと、東書のほうが使いやすいと出ています。おそらくは、こういった多様な解決方法を基に話し合っていくということになると、教師の力量も必要になってきますので、東書のように丁寧にやっていると、分かりやすい教科書ということで現場の声が出ているのかな、と思いました。

**吉田教育長** 他に。

荒木委員。

**荒木委員** 算数では、基礎となる基本的な知識や技能をしっかり身につけていかなければ、次へ進んでいかれないという面があると思います。そういったことは、子育て中に保護者の間でも話題に上りました。その点に関しまして、各社振り返りができるようにまとめがしっかりしていたり、補充問題が用意されていたり、全国学力調査の正答率が低かった問題について研究して扱っていたりと、工夫されていると思いました。学校からの推薦の多かった東京書籍でも、子どもたちがつまずきやすい箇所を分析し、教科書の展開を工夫していると感じました。

**吉田教育長** ありがとうございました。

東委員。

**東委員** それぞれの特徴があるので、甲乙つけがたいのです。ただ、やはり小中一貫教育をこれから始めていくということで、小学6年生の教科書は、中学校の学びというものを、つなぎ方が上手な教科書というのはこうやっているのだなと思って、発展問題などでは、中学ではこうなるよということを事前に出している、これは使えるなと思いました。

また、全部は確認できていないのですけれどもQRコードを幾つか確認しました。それぞれ工夫されていると思いました。ただ、全体的に、QRコードプラス教科書に出てくるマークがすごくいっぱいあって、分かりやすいようできて、学ぶ子どもは混乱するのではないかというぐらいマークが多いのが少し気になったところです。ある意味では、少しシンプルな教科書のほうが分かりやすいのかなと感じながら聞いていました。

体裁なののですけれども、1年生、一番最初の教科書で大きな薄いものを作っているというのは、

持ちやすく軽いので、これはメリットだなと思いました。4社が出していたと思うのですが、啓林館の中とじの穴がすごく大きくて、おそらく全国こういうとじ方ですね。いいのか悪いのか少し難しいのですが、小学校低学年だとこういうところひっかかったら嫌だなということは少し思いました。でも1年生のときに大きく薄く持ち運びやすい教科書を出しているということは、本当に子どもたちのことを考えて作っているなという印象で、得点が私は高いです。

**吉田教育長** 他にございますか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 東委員さんのマークが多いということと関連しますが、私も全部の教科書を見てみますと、そのマークとかキャラクターとかが少し多いのではないかなと思い、例えばそこに退屈になってしまったら絵を描いてしまったり、キャラクターのほうに目が行ってしまったりするのかなと思っていたのです。学校図書はモンスターが9匹出ていて、これは意味があるのかなと思ったのです。でも、実は見てみたら、例えば6年生の9ページにモンスターの一覧が載っているのですけれども、マトメールは、数をまとめたりすると分かりやすくなるよで、マトメール。これはなるほどなと思うのです。ベツアラワシは、意外とこれがよくて、こういう答えだよ、けれども別の考え方もあるねというときに、ベツアラワシが出てくるのです。それで、これは意外と言って言ったら失礼なのですけれども、使えるといいますか、分かりやすいなと思いました。案内役というのか卵のキャラクターみたいなのですけれども、その役割が生きているなと感じました。

啓林館は、全体を通してレイアウトがすっきりしていて分かりやすいという印象がありまして、やるべき課題が上に寄せてあって、その下にめあてがあるという形で、整っているなと感じました。

**吉田教育長** 山口委員。

**山口委員** 各社見させていただいて、最初の校長先生のご説明にもあった、グラフの理解とか活用とかに着目したのですけれども、グラフの理解とか活用って結構いろいろな頭的能力を使う範囲なのかなと思うのですけれども、唐突感がなく、割と流れとして、子どもたちに受け入れやすい流れをつくっているというのが大事なのかなと思いました。少し抽象的になってしまうのですけれども、東京書籍の先ほどのグラフの学び方の流れというのは、割と唐突感がなくて受け入れやすい流れになっているのかなと考えて、それは、他社もそれぞれ工夫されている中でも、特に理解しやすい流れになっていたと思いました。

**吉田教育長** ありがとうございます。

私からも教科書を使いながら発言させていただきます。

東書の5年生の上、掛け算の世界を広げようというところですが、これは小数の掛け算で、どれも同じように発行者の会社が使っているところなのですが、40ページの左側には、どんな掛け算を学習できたかなと既習事項を取り上げて、44ページのまとめで、小数の掛け算も整数ででき

るのだよと、極めて簡単にまとめ上げています。

また、5年生の下の方の27ページ、これは単位当たりの大きさということなのですが、これも見開きの左のページ、身近な生活の中の算数を取り上げて、クッキーが出ていまして、これを見る限りだと、同じ枚数であれば安いほうを、同じ値段であれば枚数の多いほうを選ぶのは普通なのですけれども、では次はということで、このQRコードを試しにやってみました。見ると動画が出てきて、当然ながら、先ほど言ったように同じ枚数であれば安いほう、同じ値段であれば枚数の多いほうと。では、100枚1,600円ではどうだ、としている。少し求めやすい場合から少し難しい問題へと、これは多分課題を子どもたちの側に自分ごととして捉えてもらおう、いい手段だと私は思っているのです。できるような問題から少し難しい問題へと、そういうふうにして課題を与えていくというのが工夫の一つかなと思いました。

それが、28ページで3通りの考え方ができるよねと示した上で、単位当たりにして面積を1平方メートルで整えた結果で比べる、あるいは公倍数で見てみる、とにかく合わせるという形で見させているのですけれども、29ページ、それならということで、これを少しひねって、少し難しい課題を解かせていく、こういう工夫が東書では見られるのかなと思いました。

また、先ほど渡辺委員さんからもありましたけれども、5年生の下の方の132ページでは、いわゆる難易度が色別や言葉でも表せていて、選択して学習しやすい。ただ、少し能力が高い子とか、少し追いつけていけないなという子どもに対しての配慮がそこに見られるかなと思いました。いずれにしても、大方ご意見が出ていたように、やはり指導しやすい、使いやすい、あるいは児童にとってどうなのだということが、選ぶ場合の決め手になるのかなと思います。こういうときに、報告書を見ますと、指導しやすい、使いやすい、児童にとってもQRコードを含め学習の流れが分かりやすく、興味が持てるように工夫されているといった評価が、東書の場合は多くなっていたのかなと思いました。

もう一つ、5年生の上の方の6ページに、マイノートを作ろうというところがあります。本市では、ノート指導の在り方を、ノート指導では自分の考えが、あるいは授業の流れが、思考の流れが分かるようなノートを作るようにと、学校では研究を進めていると見ているわけですが、そのノートの例が示されていて、本市が進めているノート指導の在り方と合致することが見られるかなと思いました。これは私の意見です。

他にございますでしょうか。大体よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 次に、選定資料の1を協議しましたけれども、2、3、4、資料、表記・表現、総括、これについては一括して協議したいと思います。

何かご意見ございましたらお願いします。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 今教育長さんがおっしゃったようにマイノートについて、東書では大変工夫されていると思いました。6年生では6、7ページと62、63ページに載っておりまして、ノートについては子どものみならず、経験の浅い教員にとっても、このようにノートを書かせたらいのだなということが非常に分かりやすいのではないかなと思いました。各社それぞれ工夫されていると思いますけれども、タブレットも使うのだけれども、やはり書く活動も大事にしていくのだという姿勢が見えるので、指導に生かせるのではないかなと思いました。

**吉田教育長** 大体の経験年数の浅い教員だと、ノートにどうやって書いてもらおうかなとか、あるいは板書にどうやって書こうかなというところから、授業の流れが入ると割合と分かりやすいということだと思うのです。そういったことの参考になるということですね。

**野口教育長職務代理者** はい。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。大体よろしいですか。

〔発言する人なし〕

**吉田教育長** 大体出尽くしたようですが、他に何か選定資料以外の観点で協議したい内容等がございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですので、これより算数の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

**吉田教育長** 冒頭にも申し上げましたけれども、採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

**吉田教育長** 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

**吉田教育長** それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

**吉田教育長** 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計にあたりまして、立会人として、山口委員、それから荒木委員を指名いたします。

〔立会人立会の上開票〕

**吉田教育長** 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げ

ます。

|         |          |       |
|---------|----------|-------|
| 2 番     | 東京書籍     | 3 0 点 |
| 4 番     | 大日本図書    | 2 1 点 |
| 1 1 番   | 学校図書     | 2 2 点 |
| 1 7 番   | 教育出版     | 2 0 点 |
| 6 1 番   | 新興出版社啓林館 | 2 1 点 |
| 1 1 6 番 | 日本文教出版   | 1 8 点 |

以上のとおり、算数の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

続きまして、理科の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

**吉田教育長** それでは、理科の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

**幡谷選定委員** これからそれぞれの教科書について説明いたしますが、時間の関係上、2 資料につきましてはQRコード以外の特徴を、3 表記・表現につきましては、各社同じような内容、配慮が見受けられましたので、全社に共通する特徴をお伝えします。

まず、東京書籍、1 内容です。観察、実験のページにQRコードを表示し、やり方の動画を見て確認することができるようになっています。巻末の「理科の調べ方を身につけよう」では、観察、実験の場面で必要な基礎技能をまとめて表示しています。単元末には、学んだ内容をまとめた「ふりかえろう」を設け、調べてきたことや各節のまとめの内容を把握できるようになっています。問題解決の力を重点的に育成する場面を「のぼそう！理科の力」のマークで示しています。ノートの書き方の参考となるように、巻末の「理科の調べ方を身につけよう」でノートの書き方を示したり、単元末の「ふりかえろう」を児童のノート形式で表示したりしています。

単元の初めに、問題をつかむための活動「レッツトライ！」を設け、「問題をつかもう」では「レッツトライ！」の活動を基に問題をつかむことができるようになっています。児童の興味関心をかき立てるような写真、イラスト、読み物などの資料を多く取り上げています。問題からまとめまでが一連の流れになるような学習過程を一本の線でつなげる「学びのライン」があります。また、一段組みで教科書が書かれているので、視線が上から下へ自然に流れるようになっています。

実験方法と結果・考察が違う見開きのページになっていて、考察の場面の上に実験結果が示されていることが多い構成となっています。子どもに教科書を使って実験する方法を示すことができるだけでなく、結果を基に考察やまとめが考えやすくなっています。また、イラストの吹き出しが考察を考える際の支援となるよう工夫されていて、児童が思考を巡らせやすくなっています。

2 資料です。A 4 の紙面を活用し、写真が大きく掲載されています。導入ページでは、これから学習することを掲載し、学習意欲が高められるようにしています。

3 表記・表現です。本文は敬体、問題は常体、まとめは敬体で記されています。未習の漢字にはふりがながついています。また、まとめは全て漢字にふりがながついています。重要語句は太字及び下線で表記がされています。児童が読みやすいよう、単語や文節で改行するよう工夫されています。各問題からまとめまでが線でくくられ、実験の手順は番号で示されています。以後の4社もこれと同様です。

最後に4総括になります。巻頭では、学習内容を整理し、系統立てて見通しを立てられるようにされています。各単元において、導入で問題をつかむための「レッツトライ!」では、主体的・対話的で深い学びの実現が図られるようにされています。他教科との関連については、「思い出そう」のコーナーで既習内容や生活経験との関連が図られています。小中の連携については、巻末の「1年間を振り返ろう」で、特に中学1年生の内容との関連が示されており、発展的な内容についても示されています。

続いて、大日本図書の内容です。観察や実験、器具の操作のコツなどを掲載したポイントマークを表示し、スムーズに活動を行うことができるようにしています。器具の扱い方を巻末の「使い方を覚えよう」にまとめて掲載しています。下位学年の学習内容が当該学年の学習の基礎となる箇所に、「何年で学んだこと」としてそれを示しています。学年ごとに設定された思考力、判断力、表現力を主として育成する過程には、「何年では、特にココ!」と位置づけて表示をしています。観察や実験の結果などの書き方や例を示したり、巻末に「理科のノートの書き方」、「記録と整理のしかた」を掲載したりして、児童の参考となるようにしています。

単元の導入で新たな不思議を発見できるように、問題をつかむための活動を設けたり、ダイナミックな写真資料やイラストを提示したりしています。また、児童の興味関心を高めるために「りかのたまてばこ」、「サイエンスワールド」といった資料を掲載しています。

単元の導入に「問題を見つける」という場面があり、提示されている資料を基に考えたり、実際に活動に取り組んだりすることによって、児童が問題を見いだしやすくなっています。全ての単元で問題解決の過程を見つけよう、調べよう、伝えようの3つに分け、色をつけて記載しています。児童が繰り返し学習を行う中で、問題解決の流れを身につけられるように工夫がされています。考察場面のキャラクターの吹き出しは、児童に考察の視点を与えるだけでなく、考える余地を残す工夫がされています。

2 資料です。A4の紙面を活用し、写真が大きく掲載されています。導入ページでは、見開きで写真を掲載し、これから学習することに関連する資料を掲載し、学習の見通しが立てられるようにされています。

4 総括です。巻頭では、「理科の学び方」で問題解決型学習の流れを提示し、真理を追究する姿勢を育成しようとしています。各単元において、導入で児童自身が直接自然の事物、現象に触れることができるよう活動内容が工夫されています。他教科との関連については、算数、生活科、



社会科とのつながりを重視し、マークをつけています。小中の連携については、中学校で学ぶ部分については「中学校で学ぶこと」とマークをつけてあり、円滑な接続に配慮されています。

続いて、学校図書の内容です。実験器具の扱い方や使い方を学習で扱う本文中及び巻末の「考えよう調べよう」に掲載していて、またQRコードから使い方に関する動画資料を閲覧することができるようにしています。また、各単元で学習の基礎となる下位学年の学習内容を復習することができるコンテンツを掲載しています。巻末の「考えよう調べよう」では、みつける、伝える、聞く、記録する、調べるといった視点で児童の活動の参考となるような例を掲載しています。各学年で「特につけたい力」として示し、具体的にどのようにして力をつければよいか、レベルアップのコツが書かれています。

単元の初めに、問題をつかむための活動を設けたり、自然の事物・現象に関する写真を提示したりしています。各単元の内容に適した資質・能力を、単元冒頭に「できるようになりたい」として示し、つけたい力を意識して学習に取り組めるようにしています。各単元の冒頭で、身につけたい力を「理科モンスター」というキャラクターで示すことにより、児童に理科への親しみやすさを持たせるとともに、実験の方法を考える際の手だてとなるよう工夫されています。

考察場面では、結果からどんなことが考えられるかが箇条書で示されています。キャラクターが、実験結果を基に考察を書く手だてとなる発言をしている箇所もございます。単元の終わりに説明させる問題を設け、他者に説明を行わせることにより理解を深められるよう工夫されています。

2 資料です。導入ページでこれから学習することを掲載し、学習意欲が持てるようにしています。越谷市の写真が掲載されている箇所があり、子どもたちの生活につながる資料になっています。

最後に4 総括です。巻頭では、「科学者の言葉」などで学習への意欲を喚起しています。「科学の芽を育てよう」では、その学年で身につけたい力を示し、全体の見通しを持たせています。各単元において、身につけたい3つの力を示しているとともに、他教科との関連についても意識されています。学びの広がり意識させる工夫は、中学年では習熟を深めると同時に視野を広げ、興味の対象を広げていく構成になっていて、高学年は学習をより深く理解するものとして内容が厳選されています。

次に、教育出版の1 内容です。巻末に「使い方・調べ方」を設け、器具や装置などの取扱いの詳しい解説を掲載したり、QRコードによって器具の使い方を動画で見ることができるようにしたりしています。各単元末の「ふり返ろう」では、単元で学んだことと新しく学習した言葉として、単元で学んだ重要用語がまとめられています。単元ごとに主人公を設定し、その主人公が問題を解決する姿を表現したり、巻頭に「ノートのとおり方」を設けたりすることで、児童が問題解決をする際の参考になるようにされています。問題解決の場面で教師キャラクターによる支援を

表現し、児童の参考となるようにされています。

単元の初めには、児童が主体的に問題づくりに取り組めるように問題を見いだす活動として「見つけよう」を設けています。また、児童が実際に調べたくなるような事象や2つの異なる事象を効果的に提示し、自然に対する関心や調べる意欲を持てるようにされています。問題をつかむ場面では、既習内容や生活経験を想起させる工夫がされていて、記載されている子どもの発言例から実験方法や問題解決の流れを計画することができるようになっています。

考察場面では、重点となる見方や考え方を「考え方のカギ」として示すことで、その学習で身につけたい考え方を明らかにしています。また、主に育成したい問題解決の力には、「何年のチカラ」というマークをつけ、どの学年で育成すべき力なのかが分かるよう工夫されています。

2 資料です。絵と写真を効果的に使い分けています。導入ページでは、これから学習することに関連する資料を掲載し、見通しが立てられるようにしています。知識・理解が必要なものについては、複数ページにわたって資料を掲載しているところもあります。また、参考になる本を随所で紹介しています。

最後に総括です。巻頭では、前学年で学んだことの後に、その学年で学ぶことが示されて、学習の系統性が分かりやすく示されています。各単元において育成を目指す力に応じて、「考え方のカギ」が示されています。他教科との関連について、算数と国語のつながりが重視されています。小中の連携を「学習のつながり」で、学年と内容が明示されています。学びの広がりが見られるよう、各学年で「広がる科学の世界」のコーナーが設定されています。

啓林館の1 内容です。適所に器具の使い方を設け、基本的な器具の使い方を解決したり、QRコードによって器具の使い方の動画を視聴できるようにしています。単元の学習の要点を振り返ることができるように、単元末に「まとめノート」を掲載したり、新しく学習した言葉で用語の定着を図ったりしています。

巻末の「かく」、「伝える」では、記録カードの書き方やノートのまとめ方、話し合いや発表の方法などを掲載し、児童の参考になるようにしています。「これまでの学習をつなげよう」では、複数の単元や学年、教科にまたがって学習した内容から知識を関連づけて思考する場面を設けています。

単元の初めには、問題を見いだすためにダイナミックな自然写真や日常生活とつながる写真・資料を提示したり、「問題をつかもう」の活動を設けたりしています。新たな問題発見に向かう意欲を高めるために、問題解決の流れの中に「もっと知りたい」を設けています。問題解決の流れを「見つける・調べる・まとめる」の3段階で示し、さらに次の問題へつながるサイクル構造となっているので、学習の見通しが持ちやすくなっています。また、単元の初めと終わりに同じ問題を投げかけることで、児童に自らの成長を実感させられるよう工夫がされています。実験方法と結果、考察、まとめが違う見開きのページに示されており、教科書を使った実験の説明がしや

すくなっています。また、考察の視点を教師のイラストの吹き出しで示しており、児童の考えの手助けとなっています。

2資料です。写真で表現しづらいことは、絵を使って効果的に本文の内容を理解しやすいようにしています。学習内容と関連した全国各地の施設や風景が多く掲載されています。

最後に総括です。巻頭では、理科の見方・考え方について触れられ、課題解決の方法が明確にされています。各単元において、導入で日常生活に近い課題が示されています。他教科との関連についてはマークで示されており、特に算数については理科につながる「算数のまど」として各学年の巻末に掲載されています。小中の連携につきましては、学びの広がりを意識させるように理解の広場などで発展的内容としてマークつきで示されています。

---

#### ◎休憩の宣告

**吉田教育長** ここで、昼休憩に入ります。再開は、午後1時10分といたします。

休憩 午後 0時10分

再開 午後 1時10分

---

#### ◎開議の宣告

**吉田教育長** 休憩前に引き続き会議を始めます。

理科の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めましたが、続いて、ただいまの休憩前に行われた報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** まず、選定委員会としてどの教科書を推薦するのかご説明願います。

**佐々木選定委員長** 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございます。2番、東京書籍63点、4番、大日本図書45点、11番、学校図書75点、17番、教育出版58点、26番、信州教育出版22点、61番、啓林館54点でした。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、75点の学校図書、63点の東京書籍、58点の教育出版を推薦いたします。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 選定委員会では、どのような話題が出たのでしょうか。

**幡谷選定委員** 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、問題解決的な過程の工夫について、課題解決の過程が決まっており、示し方にも差異はありますが、一連の流れが分かりやすくなっているということでした。

2点目は、課題について、与えられたものではなく、自分のこととして捉えられる工夫が導入されていることが出ました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** 学校の調査報告をされていると思うのですが、学校の調査ではどの教科書会社に推薦が多くて、その理由はどんなところにあったのかというのを教えてください。

**幡谷選定委員** 学校からの推薦については、学校図書を推薦する学校が一番多く24票、続いて東京書籍が9票、教育出版が7票という結果でした。

推薦の理由としましては、東京書籍では、問題、実験、結果、まとめが大きく示されており、学習の流れが見やすい。写真が大きく見やすい。大日本図書は、イラストや写真が多く分かりやすい。導入ページで、これから学習することを掲載しており意欲が持てる。学校図書では、実験の説明が詳しく書かれており指導がしやすい、身につけたい力が明示されており、児童が見通しを持って学習に取り組める。教育出版では、課題が明確で分かりやすい、イラストや図が多く、子どもの興味を引く。信州教育出版は特にございません。啓林館では、他学年、他単元とのつながりが記されており関連づけやすい。写真が豊富で、活動の見通しが立てやすいなどの意見がありました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 理科では実験をすることが多く、安全面についても話題になることが多いのですが、それらのことについて、各社配慮はあるのでしょうか。また、学校では授業の中でどのような安全面について指導しているのでしょうか。

**幡谷選定委員** それでは、安全面に関しての配慮ですけれども、こちらについてはどの発行者の会社も、巻頭の部分でそれぞれ危険に関係する、注意に関するマーク等を紹介しています。

ご覧いただいたほうが確実だと思いますので、6年生の教科書で記載があるものをお伝えします。まず東京書籍ですが、5ページの右上に危険というマークがついています。危険があるところには、必ずマークがついていて、さらにどんな注意をしなければいけないかが記入されています。

それから、大日本図書ですけれども、注意マークというのが、2ページに出ていると思います。これは危険がないよう気をつけようとして書いてありますが、こちらもパラパラとめくっていただい

た中に出てくると思うのですが、結構な文量で事細かに注意が書かれていると思います。例えば13ページに、実験内容についても注意書きがあるのですが、文章でしっかりと書かれているようになっています。

続いて、学校図書ですが、5ページにマークが出ています。こちらについても、安全のために気をつけることとなっているのですが、21ページの右下にある、気体検知管を使うことがある、これもやはり文章でどのような注意をしなければいけないか具体的に書かれています。

教育出版については、4ページをご覧ください。この箇所については注意マーク、道具を壊さないためのものと、危険マーク、事故を防止するためのマークの2つが用意されています。11ページには両方のマークが出ているのですけれども、どのような注意が必要なのか、どのような危険があるのか、具体的に書かれています。

最後、啓林館になります。8ページにマークは出ています。ICT、自然を大切に発展、その下に注意というのがあります。この会社については、さらにその注意マークと事故を防ぐための6種類のマークがありますので、そちらもよく見ていただきたいと思います。マークを見ただけで、ああ、何の注意が必要なのかなというのが分かりやすいと思いますが、必要なものに関しては、さらにどのような注意が必要なのか、他社と同じように文章表記がしてあると思います。

理科においては、実験で事故が起きてしまったということは、あってはならないことなのですが、ニュースになっているところを見ると、やはり注意されていても起きてしまうものということなので、事前にいろいろな実験をした上で、教師がしっかりとその危険を把握し、子どもたちに丁寧に指導して事故がなく実験を楽しむ、分からないものを探究するということを十分楽しんでもらえるように準備していく、特に学校が安全面に配慮してやっていくことになると思います。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 選定委員会には、1号委員として保護者がいらっしゃいますが、どのような意見がありましたでしょうか。

**佐々木選定委員長** QRコードが増えていて、実際にQRコードを使うと、実験や道具の扱い方法などが分かりやすくなっているというような意見がございました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 他になれば質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてでございますが、何かご意見ございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 各社とも、学ぶ意欲を持って臨めるように、そして学習を深められるように様々な工夫がされていました。吹き出しやマークを用いたり、巻末に基本的な技能を掲載したりするなど、子どもたちが様々な視点を持ち、問題を見つけ、多面的に考え、見通しを持って問題を解決できるような配慮が随所に見られました。

学校からの推薦の多かった学校図書は、「問題」とそれに対応する「わかったこと」がはっきりと書かれていて見やすく、「問題を見つけよう」から「わかったこと」までが、ずっと矢印でつながっていて、大変分かりやすいと思いました。「ふりカエル」「ふりかえろう」「できるようになった」で振り返りがしっかりできるようになっていって、「もっとしりたい」の内容も充実していると思いました。写真、絵、吹き出し、文章が適材適所に絶妙に組み合わせられて使われていると感じました。このような点から、確かな学力を定着させやすく、学びを深めやすいのではないかと感じました。

さらに、調査の観点2とも関連しますが、越谷市の風景、小学校、児童館コスモスのプラネタリウムと、本市の写真が多数使用されていることから、子どもたちが非常に興味を持ちやすいと思います。

東京書籍は、写真も大きく文字も大きくて、例えば3年生、蚕の育ち方のところでは、35ページになりますけれども、富岡製糸場については写真つきで触れたり、音の性質のところでは、同じく3年生117ページ、鍵盤ハーモニカなどの楽器についても写真つきで扱ったりと、大きな紙面がよく生かされているという印象を持ちました。

また、先ほどの選定委員さんのご説明のとおり、理科では観察や実験の場面において、安全への配慮が大事だと思います。各者、マークを使うなどして表記されていました。さらに教育出版では、こちら全学年の裏表紙にも危険事項が掲載されていました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 理科というのは、評価自体が国語とか数学とかの系統立ってどんどん進んでいく学問というよりは、自然に起きる自然をどう捉えるかとかという、いろんなことに突然入って行って、そこからどう学んでいくかということを見つけなければいけないと思うのですけれども、学校図書の単元の最初のところは、問題意識を持ってもらうような工夫がとても上手で、各社いろいろ工夫されている中で、最初の単元の初めのところの分量が多過ぎず少な過ぎず、ちょうどずっと入ってきて、そこから問題意識を持ちやすいような工夫がされているというふうに感じました。

**吉田教育長** ありがとうございます。他にございますでしょうか。関連しても構いませんけれども。

渡辺委員。

**渡辺委員** 私もほかの委員さんと同じなのですが、理科はやはり実験を行う場面が多くて、

手順を間違えると危険なこともありますから、そういう観点から見ますと、特に東京書籍さんが「レッツトライ！」で、まず大きな写真で子どもたちに考えさせて、それから問題をつかんで予想を立てよう、そして計画して、ではやってみようというこの流れが非常に分かりやすく、実際に教科書も紙面が大きくて、いいなと感じました。

また、実験器具の使い方につきましても、例えば6年生の188ページ、顕微鏡の使い方、気体検知管の使い方、石灰水の使い方などが、縦に手順が書かれていて、これも見やすいなと感じました。

**吉田教育長** 他にございませんでしょうか。

東委員。

**東委員** 学校図書の、例えば理科3年3ページですが、教科書を使って勉強するのは小学生なのですけれども、先生方へという先生向けがあって、QRコードで見るようになっているのです。ほかの箇所にも出てくるのですが、不思議な感じなのだけれども、選定委員で、この先生向けの情報が教科書に載っていることで何か議論があったか教えていただきたいです。

つまり、先生方へというQRコードを子どもも見られるわけです。だから、全員が見られる、親も、子どもも、先生も見られるという、ここが少し不思議だったので、もちろん選定委員で指導しやすいと書かれていたので、そのとおりなのだろうと思うのですけれども、学校図書は、これが大きな特徴だと思いました。

東京書籍は本当にいろいろな流れがよくできていると思っていて、3年生の生活科で学んだことからの流れというのはすごく整理されていて、要するに教科等横断的な学習というのに相当力を入れて編集しているというのがよく分かったし、うまく活用すれば、やはり授業がしやすいのではないかとは思いました。

教育出版は安全性について、理科は本当に何か事故が起きたりするといけないのですけれども、裏表紙に大きくこういうのは危険だって知らせているのは特徴的だなと思いました。

どの会社も、いろいろな工夫がされていると思いましたし、安全性の部分はどれも配慮しているというのは分かりました。ただ、啓林館の安全のところは、確かに分かりやすいのだけれども、怪我、やけど、強い光、排液、換気など細かく分けると、そんなに見ないかなと感じて、少し分類し過ぎという印象はありました。私の感想です。

**吉田教育長** 今見ましたところ、先生方へと書いてあるところは、QRコードの活用の仕方ということで、先生方に宛てた内容ではなくて、QRコードをこういうふうに使ったらどうですかと、提案として書かれている感じを受けたのですけれども。どうでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 先ほどの3ページについては、うつらない、うつさないためにということで、指導者、保護者の皆様へとなっているのかなと思うのですけれども、学校の新しい生活様式

とは異なる表現が含まれていますということで、ですからその辺の感染症予防について、かなり細かく東京書籍では書いたのかなと思いました。

**吉田教育長** 選定委員さんで何か話題になったことありますか。

**幡谷選定委員** こちらは、特に話題にはならなかったのですが、小学校の教科書ですので、理科の専門の教員もいれば、そうでない教員もいますので、特に理科の指導に少しでも不安がある先生というのは、こういうものがあると非常に助かるのではないかと思います。

QRコード一つとってみても、全てを使わなければいけないわけではなくて、必要なものを選んで使ってほしいと思いますし、そういうのを事前にこういうものでお知らせして勉強した上で、先生が授業の中で教科書をどのように使っていくのかを具体的に考えていくと思いますので、そういう面で配慮された教科書なのだろうと思います。

**吉田教育長** QRコードについては、前回も使われてきたけれども、今回は数が増えたと思うのです。新しい学習指導要領になって、QRコードが出てきたということもあって、私が考えるには、この先生方へというのは、先生方へ宛てた内容もあるのだろうけれども、主にその活用の仕方はこういうことですよということで、3年生の目次のところの3ページの先生方へというのは、文章を読むと書かれていました。振り返りや確認を深めるなどの内容も含まれています。学校での指導や家庭学習など、必要に応じてお使いくださいということだと思います。

他にございますでしょうか。

私から申し上げますけれども、荒木委員さんのおっしゃったこととほぼ同じなのですが、例えば学図の3年生の33ページ、ここに太陽の1日の働きというのが載っているのですが、これまさに市民球場からリユースですよ。だからどうなのだとと言われてしまうと困るのですが、学習指導要領の学力の3要素の一つに、学びに向かう力、これを挙げています。この力を持たせるためには、既習の内容に触れたり、これから学習に見通しを持たせたりして、目的意識を持たせて取り組ませることも一つですけれども、身近なものをこうやって取り上げてくれることも越谷市の子どもにとっては一つの、市民球場があるということをどれだけの子どもが知っているか、ほぼ知っていると思うので、ああ、こういうふうな形でこれは太陽が動いているのだということを確認できるのかなと思いました。意外とでかい動きというのですか、天球のこういう動きは理解が易しそうでいてなかなか難しいのですよね。だから、実際に観察しやすいような場所の設定になっていて、これは面白いなと思いました。

4年生の学図でも、88、89ページがどこだか分かりますか。これは城ノ上小でしょう。多分、城ノ上小の子どものしか分からないかもしれないけれども、城ノ上小だと言ってあげれば、また興味も湧くのかなと思いました。

6年生の104、106ページにリユースが載っています。リユースの煙突が目立つのです。108、109ページにも載っていて、越谷市の子どもにとっては興味関心が湧くのかなと思いました。



荒木委員さんと重なるのですが、6年生の4、5ページのところですか、ちょうど見開きにして真ん中辺ですが、見つけようから始まって、見つける、調べる、まとめるという流れになっています。分かりやすいかなと思うのです。無理なく設定されている気がします。

12ページをみますと、その通り問題を見つけようになっている、吹き出しの中で予想させたり、予想の中から計画を立てたり、あるいは問題をはっきりさせたりして、では次に計画を立てて手だてを講じて実験に移る。このパターンが12ページから14ページ、その中で計画、結果、そして考察、計画、実験、結果、あるいは実験、観察、結果、考察といった流れが組まれていて、同じく15ページから17ページ、15ページの問題を見つけようから問題設定、予想、計画を立てて、予想、計画の中には吹き出しを利用して、こういうことが言えるのではとあえて画面上の、紙面上のキャラクターに予想を立てさせるような形で出している。そして調べるでは、16ページでは実験をやって、同じように予想、計画、結果、考察という流れが組まれている。さらに、18ページから20ページ、21ページから24ページ、同じような形での繰り返しが何回も出てくるところが非常に進めやすいのかと思いました。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** なければ、次の観点ですが、先ほどと同じように資料、それから表記・表現、そして総括、これは一括して協議いたします。

既にお話の中に、ご意見の中に出てきていることもございますけれども、いかがでしょうか。残りの3つの観点でのご意見ございましたらお願いいたします。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** それでは、資料等について少し話させていただきます。実はその前に、展示会のアンケートの中に、算数と同じ発行者の会社のほうがいいのではないかという意見が書かれておりました。どういうことかなと思って少し見ていたのですけれども、算数が東書で、ノートのとまとめ方などが資料として出ているのを見ると、分かりやすいのかなと思いました。ただ、先ほど教育長さんからもお話があったように、特に6年生で越谷市の写真がたくさん出ている单元があります。月の動き、そういったところが越谷市が取り扱われているということで、そちらにも親しみがあるのではないかという意見もありました。私も、特に月の動きは、学校ではなかなか現場で指導できないところですので、親しみあるところで興味関心を抱かせて、各学校で目印になる建物を決めて、うちでやっごらんということで持っていきやすいのかと思いました。ですので、東書のよさもありますし、ただ越谷という土地柄、学図がおそらく使い方も慣れてきている部分もあるので、そちらの意見が多かったのかなと感じました。

それからもう一点、よろしいですか。

**吉田教育長** 野口委員。

**野口教育長職務代理者** 単元の末に、必ず各社とも確かめ問題を出して理解の定着を図っているの  
で、学力向上の流れの中で、各社とも工夫しているところだなと感じました。

**吉田教育長** 他に、この３観点でございましたら、ご意見等お願いいたします。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** この観点の他に、協議したい内容はございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですので、これより理科の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

**吉田教育長** 採択は無記名投票により行い、私及び５名の委員の５段階評価の合計が最も高いもの  
を採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

**吉田教育長** 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

**吉田教育長** それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

**吉田教育長** 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計にあたりまして、立会人として、渡辺委  
員、それから野口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

**吉田教育長** 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げ  
ます。

|       |               |       |
|-------|---------------|-------|
| 2 番   | 東京書籍          | 2 5 点 |
| 4 番   | 大日本図書         | 1 8 点 |
| 1 1 番 | 学校図書          | 3 0 点 |
| 1 7 番 | 教育出版          | 2 2 点 |
| 2 6 番 | 一般社団法人信州教育出版社 | 1 2 点 |
| 6 1 番 | 新興出版社啓林館      | 1 8 点 |

以上のとおり、理科の教科用図書は、11番、学校図書を採択することに決しました。

次に、家庭の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

**吉田教育長** 家庭の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

**新坂選定委員** それでは、家庭教科用図書選定資料についてご説明いたします。

小学校家庭については、東京書籍と開隆堂の2社があります。まず、東京書籍について選定の観点に沿ってご説明いたします。

1 内容、(1) 知識及び技能が習得できるようにするための工夫といたしまして、基礎的、基本的な知識・技能を身につけられるよう、困ったときにいつでも開くことができる「いつも確かめよう」の資料が巻頭、巻末に分かりやすく掲載されています。そこには、実寸大の写真の掲載があり、身につけたい技能のイメージが大変持ちやすくなっています。本文には、知識・技能に関する記述や安全の記述が丁寧に示されています。例えば16ページ、17ページをお開きください。子どもたちが最初にガスこんろを使うときの使い方について、細かく分かりやすく示されています。

(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について、15の大きい題材において、問題解決的な学習が展開できるよう3ステップで構成されています。めあてには、何々しましょうという指示の言葉で児童の学習活動を示しています。自分や友達の考えを記入できる欄が設けられていて、話し合い活動によって主体的な学びや対話的な学びにつながるよう配慮がなされているところもあります。ステップごとに振り返りを設けて、次の活動へつなげる思考を持たせるようになっています。題材の初めに「家庭科の窓」として、生活を見つめる4つの視点を示すことで、生活の中から課題を発見しやすくなり、解決に向けて学び合うことができるように工夫されています。

(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫につきましては、家庭や地域との関わり方を学習するために、128ページの「あなたは家庭や地域の宝物」という題材が設定され、家庭や地域をよりよく元気にしていこうとする児童の実践が掲載されています。また、62ページには「気持ちがつながる家族の時間」の家族の団らんの学習として、4枚の挿絵の様子や工夫について考えさせることを導入として掲載しています。また、教科書の6ページをご覧ください。「成長の記録」というページがあります。こちらは、ポートフォリオとして2年間の学びの記録を積み重ねることで成長を実感し、生活の中でさらなる課題を子どもたちが設定できるように工夫されています。

(4) 実践的・体験的な活動の工夫としまして、学習で身につけた技能を家庭や地域などで生かすことができるように、「生活を変えるチャンス」を掲載しています。65、121、134ページに掲

載されています。また、43ページには、SDGsの視点を持って持続可能な社会をつくるための生活の在り方を考え、家庭や地域の実践につなげるように示されています。

2 資料について申し上げます。作業の手順の説明では、番号や見出しを大きく見やすく掲載しています。例えば46ページの御飯の炊き方を学ぶページですけれども、ここにあるように番号や見出しが大きく、とても見やすくなっており、ポイントや注意が丁寧に説明されています。教科書はA4判を用い、見開きで学習や作業が進行するようにレイアウトされています。写真、イラストが大きく、大変見やすくなっています。巻末の「いつも確かめよう」では、実習の技能が大きく取り上げられていて、子どもたちが繰り返しそのページを開いて確認するのに適しています。左利きの場合の写真も大きく掲載されています。また、巻頭の「いつも確かめよう」では、衛生・安全に関することについて詳しく掲載しており、子どもたちがここに立ち返って確認することができます。各題材、ステップごとの学習に合わせたQRコンテンツがあり、制作の手順についての動画を自分のタブレットで確認できたり、考えを整理する助けとなるトライシート等がその中に示されています。

3 表記・表現について、16種類のマークを使って説明をしています。どんなことに関係しているのか、気をつけることは何かなどが一目で分かるようになっています。また、最初の目次の題材の配列が、学年ごとに横に並べて掲載されており、系統性が明確に可視化されています。小学校5年生以降で学習する常用漢字にはふりがながついており、専門的な用語については注釈などで、児童が理解しやすいような簡潔な表現で解説を補足しています。本文と資料部分が明確に区別できるように、罫線を使う、背景に色をつけるなどの工夫をして見やすくしています。また、4人の子どもがキャラクターとして登場して学習のポイントを示唆するなど、児童の学習意欲を喚起し、主体的な学習を促すように表現が工夫されています。

4 総括です。135ページには、2年間のまとめとして、これからさらによりよい生活を送るために、家庭科の窓の4つの視点を働かせて工夫したことを記すようになっています。学習の進め方が、全てにおいて3ステップで示されており、課題を解決しながら生活をよりよくしようとする、子どもたちの意欲を高められるように工夫されています。題材の終わりには「深めよう」があり、学習を生かして考えよう、調べようなどの活動例が示されています。関連マークを掲載し、ほかの教科での学習内容や中学校の内容を結びつけることができます。また、小学校英語と関連して、家庭科に関係のある英単語を掲載するなどしています。最初の6ページの「成長の記録」では、題材の振り返りと次への課題を考え、系統的に学習が進められるようになっています。

次に、開隆堂についてご説明します。1 内容につきまして、(1) 知識及び技能が習得できるようにするための工夫として、基礎的・基本的な知識・技能を段階的に身につけられるよう、簡単なものから繰り返し、積み重ねていくスモールステップを基本とした学習展開を示しています。また、「なぜ~だろう」などの児童への問いかけやフォトランゲージを掲載し、題材の見通しを持

たせ、知識・技能の定着につながるように工夫されています。

(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫として、開隆堂も3ステップで題材を構成しており、生活の様々な場面を想起させるための写真やイラストと、なぜ、どのようになどの言葉を使った学習課題を常に左側のページに掲載しており、導入として活用しやすくなっています。また、各実習に「できたかな」の欄を設け、技能についての学習成果を高めることができるように配慮されています。例えば91ページの右下、炒めておかずを作ろうの最後に、このようなことができたかなという振り返りの欄を設けています。115ページや51ページにも同じような欄を設けています。それから、生活を振り返る4つの視点を示し、思考の際、視点を明確にするような配慮がされています。

(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫として、家庭や地域との関わり方を学習するために、126ページの「ともに生きる地域での生活」が設定され、「やってみよう地域の関わりプロジェクト」として実践していく流れが子どもたちに分かりやすく掲載されています。また、74ページには「いっしょにほっとタイム」の家族との団らんの学習では、7枚の写真から団らんの大切さを考える設定となっています。また、80ページの「生活の課題と実せん」や、136ページの「2年間の学習を中学校につなげよう」など、小学校の学びを将来に向けて広げることができるように工夫されています。

(4) 実践的、体験的な活動の工夫として、繰り返しになりますが、各題材の最後に「生かす・深める」のコーナーがあり、家庭での実践につなげられる内容になっており、先ほど申しました「生活の課題と実せん」として、5年生でも6年生でも取り組めるような4例を掲載しています。

2資料につきまして、作業の手順の説明は、見開きの端から端までを使い背景に色をつけ、流れが一目で分かるようにしています。先ほど開いていただきました50ページの御飯のところをもう一度ご覧ください。このように、端から端まで一連の流れとして分かりやすく掲載されています。イラストや小見出し、ナンバリングを使い、順を追って理解しやすくなっています。また、巻末には材料や用具に関わる知識のほか、生活の中のプログラミングや防災の備えについての記事も掲載されています。左利きの児童へも実習、制作に対応できるように、「利き手はどちら」の資料が大変活用しやすくなっています。QRコンテンツにつきまして、開隆堂でも実際の動きを何度も子どもたちが見返しながら学習できるようになっています。実習や制作に関わる映像や資料、ワークシートなど、学習に役立つ資料が動画とともに数多く用意されています。

3表記・表現について。13種類のマークを用いています。安全について注意を促す安全マークや、環境への配慮を示す環境マークなど、取り組む視点を明確にするマークが随所に使われています。また、豆知識として用語の説明や用具、それから関係する歴史など、本文と関連した内容を豆知識として下の欄のところに掲載しています。実習や制作などの手順は、大きく全て横並びのデザインで統一されています。本文は、大きめのユニバーサルフォントを使用しており、また

年代や国籍など、イラストには多様な人々をキャラクターとして登場させるなど、多様性にも配慮されています。

4 総括です。2 年間の学習を振り返り、中学校の学習内容の一部を写真と言葉で示しています。136、137 ページになります。子どもたちが、中学校の学習へのつながりがイメージできるようになっています。また、学習の進め方が 3 ステップで示されており、題材の初めに項目ごとの学習のめあてが必ず示されており、何を学習するのが大変明確です。また、題材の最後には「振り返り」、「生活に生かそう」のコーナーがあり、生活へ生かす意欲が喚起されるようになっています。他教科と関連を図る学習内容には関連マーク、教科書内での関連には参照ページを取り上げています。また、小学校英語と連携して、家庭科に関係のある英単語を掲載しています。それから、47 都道府県全てを食材やキャリアのテーマで話題の中に取り上げており、自分の住んでいる地域など身近なところから興味を持てるような工夫が見られます。77 ページには、埼玉県のいがまんじゅうも紹介されています。

2 社ともに生活の中の課題の気づきを促したり、基礎的な知識、技能の習得や、学んだことを生活に生かしていこうとする態度の育成につながる工夫がなされ、児童は実生活をよりよく生き抜こうとする力を養うことのできる内容となっています。

**吉田教育長** ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。何かございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 選定委員として、どの教科書を推薦するのでしょうか。

**佐々木選定委員長** 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が2種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2 番、東京書籍59点、9 番、開隆堂77点、本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、77点の開隆堂、59点の東京書籍を推薦いたします。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 選定委員会では、どのような話題が出たのでしょうか。

**新坂選定委員** 選定委員会では、主に2つの話題が出しました。

1 点目は、学んだことを自分の生活に生かしていくための工夫についてです。家庭科は、学習したことを家庭生活に生かすことが重要というご意見もありました。2 社とも、そのための工夫をしています。東京書籍では、ステップ3で家庭での実践を促し、「深めよう」というところで学習したことを生かせるような投げかけをしています。開隆堂も、「生かす・深める」のところで、

継続して取り組めるような工夫がされています。

また、東京書籍の夏休みわくわくチャレンジや生活を変えるチャンス、そして開隆堂のレッツトライ、生活の課題と実践は、子どもたちが取り組んでみたくなる例が豊富に紹介されています。

2点目の話題は、消費者教育についてのことです。また、ものの消費からSDGsの視点のつながりについても話題になりました。消費については、東京書籍では4番の持続可能な社会への36ページです。それから、開隆堂は8番の生活を支えるものやお金の58ページで取り上げています。開隆堂は、豆知識の中で2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられ、様々な契約が1人のできるようになったということも紹介しています。どちらも消費者の役割や、様々な購入の仕方なども丁寧に掲載されています。開隆堂は、トラブルケースや解決へのヒントも掲載しています。東京書籍のほうは、消費の学習からSDGsの視点に学習を展開しているようなつくりになっています。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** 先ほども、理科でも聞いたのですけれども、学校の調査報告書では、この2つの発行者の会社ですが、どちらの推薦が多かったのか、それからその理由について教えてください。

**新坂選定委員** 学校からの推薦では、開隆堂が28票、続いて東京書籍が14票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では、單元ごとに自分の考えを持ったり話し合ったりする活動が計画されており、協働して学ぶことができる。道具の取扱いの説明が詳しく丁寧に示されている。学習に関する情報やコラムなど、1ページごとの情報が多く、活用しやすいなどの声がありました。

開隆堂では、調理や制作の手順が見開きで写真とともに掲載されており分かりやすい。生活の中のプログラミングや、安全・防災などの記載があり、子どもたちの生活につながる工夫がされている。図や絵が大きく、大事な言葉が黒の太字で書かれており、児童にとって分かりやすいなどの意見がありました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 家庭科では家庭生活の中で生かせる知識や技能を習得することも必要だと思いますけれども、裁縫、調理、洗濯など、習得のために何か工夫されているところはありますか。

**新坂選定委員** 知識や技能の習得については、2社ともに工夫がされています。

東京書籍では、先ほども少し申しましたが、巻頭、そして巻末の「いつも確かめよう」を開いていただきますと、8、9、10、11ページの4ページにわたり、巻末にも136ページから包丁の使い方ですとか、手縫い、ミシンの使い方ですとか、大きな写真とともに「いつも確かめよう」と

いうことで掲載されています。そして、QRコードの中にある動画も大変有効です。

開隆堂も、同じく巻末に大きな写真が掲載されています。140ページに調理編、151ページに制作編、152ページにインターネットの使い方なども紹介されており、分かりやすくなっています。そして、スモールステップで技能の習得を楽しみながら図れるように工夫されています。例えば22ページでは、子どもたちが初めて針と糸を手にするところですが、玉結びから始まり、玉結び、そして並縫い、玉留めという制作手順、縫う手順が載りますが、開隆堂では、まず玉結びをしっかりと、そして玉留めを先に紹介し、玉結び、玉留めができるようになってから、次のページで手縫いの仕方を説明するというような、玉結び、玉留めはとても子どもたちがつまずくところではありますけれども、まずそこをしっかりと紹介し、慣れてから縫おうという順になっています。24ページから25ページの見開きにあるボタンつけについても、イラストで分かりやすく紹介され、子どもたちがやってみようかなという気持ちになりやすい掲載となっています。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 選定委員会には、1号委員として保護者の方がいらっしゃると思いますが、保護者からはどのような意見が出ましたでしょうか。

**佐々木選定委員長** 一人ひとりの家族の家庭環境が違う中で、いろいろな考えを知ることが必要だというご意見。また、自分の考えだけでなく、友達と話し合い、それらの考えを記入する欄があるという教科書のつくり方は非常によいというご意見が出されました。

**吉田教育長** よろしいですか。

**渡辺委員** はい、ありがとうございます。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 他にないようですので、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 家庭科というのは、子どもたちの日常生活そのものを学ぶ教科だと思います。選定委員さんからもお話があったように、学ぶことによってよりよい生活が送れるようになる教科で、とても大切な教科だと思っています。

まず、東京書籍は、目次を見ますと15の大題材について3つのステップが組まれていて、開隆堂も、5年生で11、6年生で9の3ステップで組まれているというところでは同じかと思います。そして、ご説明にもありましたように、東京書籍は話し合い活動が随所にあつて、言語的な活



動をしますと、子どもたちは主体的な学びにもつながりますし、思考、判断を養うことにもつながるので、よいことだなと思いました。

また、東京書籍は、〇〇の手順というところが多うございまして、例えば21ページの調理の手順、40ページの買物の手順のような形で簡潔にまとめられているのが、分かりやすくよいと思いました。

また、ご説明にもあったのですけれども、資料がとても豊富だなという印象がございまして。特に39ページなのですけれども、発展として、インターネットでの買物に注意しようという記載がありまして、やはり今の小学校5年生、6年生になると、携帯なども自分のものを持っていたりするので、発展としてでも扱っていくことは、いいことだなと思っています。

開隆堂については、これもご説明にあったのですけれども、写真に関して、写真の背景に色がついているのでとても見やすいです。東京書籍も、同じように見開き横で、調理の手順とかも確かに組まれてはいるのですけれども、開隆堂のほうが見やすいのかなと感じました。

もう一つ、開隆堂の60ページで、買物の仕方を考えようというところで、「生活に必要な needs」か「欲しいもの wants」か、という表現を取り入れている点が面白いな、と思いました。また、買う目的を考える、買うかどうかを決めて、その結果こうであるというようなフローチャートが、よいと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 選定委員の先生のご説明と重複するところもございまして、特に印象に残った点を申し上げます。

どちらの教科書も、3つのステップで学習が進められるように工夫してありました。東京書籍は、やはり「いつも確かめよう」という部分があり、特に初めの8から11ページには、安全面で気をつけること、終わりの136から145ページには、実習の基本がとても分かりやすくまとめてあると私も思いました。細かいことですが、11ページの包丁の置き方を写真で示してあるのもよいと思いました。

開隆堂は、ジャガイモをゆでる学習の際に、15ページ中ほど、ジャガイモの芽や日光を浴びて緑色になった部分には、体に有害な部分が含まれていますとあり、そのようなことを知っておくことは大事なことです。どうすればよいのかを含め、写真つきでしっかりと書かれている点がよいと思います。また、149ページの切り方と大きさの目安が実物大で掲載されていたり、裏表紙に切り方の写真が載っていたりと、工夫が見られました。

**吉田教育長** ありがとうございます。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** どちらも非常に見やすく、興味を持てるようになっていて、調査書のほうにもフォトラ

ンゲージと書いてあって、写真やイラストから、これに込められた意味とかをみんなで話し合うという、そのきっかけで始まるようなつくりも、非常に導入にはいいのかなと思いました。

開隆堂は、最初のページに必ずフォトランゲージが入っていて、これもすごく導入にはいいと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** 1号委員の保護者の方の意見で、ああ、なるほどなと私感心したのですけれども、今の家族の形態ってすごく多様化していて、義務教育の中でこの家族の問題をどう扱うかは、すごく難しいと思ったのです。特にそこを比較したときに、東京書籍は気持ちがつながる家族の時間という、もうダイレクトに家族の時間で出しているのですが、開隆堂はすごく工夫しているなと思って、家族って使わないで「いっしょにほっとタイム」という名称で、その中に家族のことも出てくるのです。これは、開隆堂がすごく工夫しているなということがよく分かりましたので、1点上がったという感じです。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 小学校で調理実習などをするときには、教科書を横に置きながら実習をするのでしょうか。

**新坂選定委員** 置いても使えるよう、どちらの教科書も開いた状態で見やすくなっています。ただ、実際実習が始まったときには、机の上はなるべく広く、安全面を考えて、置かないようにという指導はしています。

**吉田教育長** 渡辺委員。

**渡辺委員** では、実習をしながら、これを見ながらということはないということによろしいですか。

**新坂選定委員** 調理実習につきましては、なるべく開かないように指導しますけれども、裁縫、手縫いですとかミシンのときには、横に置いて、子どもが確認しながらやることも多くございます。

**吉田教育長** 学習指導要領では基本理念として、よりよい社会を築いていくための資質、能力を育むとしているわけですが、そのために、まずは課題を自分ごととして受け止めるということが大事だろうと考えています。課題を自分ごととして受け止めた時点で、主体的にそれを解決しようと、そして生活に移行していこうということができてくるのかなと思うわけですが、この点開隆堂では、もう再三出ていますけれども、6、7ページで気づく、見つける、分かる、できる、生かす、深める、極めて明快に学習過程を流しているわけですが、この繰り返して学べるようにしていますので、子どもたちが安心して学習に取り組めるような、そういう工夫が見られると思います。例えば58ページ、生活を支えるものやお金ということで、消費活動や収支のバランス等、結構難しい概念だと思うのですが、これを上の、英語でも書かれています。具体的な消費活動、これは物を買うだけではなくてサービスの購入、これは東書の36ページでも書

かれてはいるのですが、より具体的に書かれていると思います。それと同時に、58ページの左側を見ると、学習のめあてが書いてあって、そこで気づく、分かる、生かす、深める、要するに、子どもたちがここで何を勉強するのか、それが非常に分かりやすく示されている。しかも、それが繰り返し、例えば66ページを見ると、同じように左側に学習のめあてがあって、気づく、できる、生かすとなっています。続いて70ページでも同じように、気づく、分かる、生かす。子どもたちが安心して学習に取り組めるような、そういう工夫が見られるということが開隆堂の一つの特徴と言えるかと考えます。

また、調理実習は実際に本市で事故が起きたことがございました。両方とも、これは安全については取り扱っているわけですが、開隆堂の10ページを開いていただきますと、いわゆる自分の生活、家庭での生活、社会での生活の見方・考え方の4つの視点、これが左端に同じように学習のめあての上のところですが、四つ葉のクローバーで示されています。これは協力、あるいは健康、快適、安全、そして生活、文化、持続可能な社会、これを4つのクローバーで表しているのですが、10ページのクッキングの初めの一步として、特に健康、快適、安全、これを強調し、そして11ページ以下、いわゆる赤十字、赤十字のマークを配して注意を促すよう工夫をしています。また、142ページには、まとめて安全と衛生に気をつけて実施しようと、再度取り上げています。

観点1の内容については、他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** それでは、資料、次の観点ですけれども、資料、表記・表現、総括については一括して協議することといたします。

この点についてご意見ございましたらよろしく願いいたします。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 開隆堂の153ページになるのですか、一番最後に家庭科でよく使われる用語というのが載ってまして、家庭科の時間というのは週の中で時数も少ないほうですので、振り返るときに大変参考になるのではないかと思います。

136、137ページですが、中学校へつなげようということで、東書でも出ていると思うのですが、コンパクトに見開きで、中学校へのつながりをきちんとまとめてあるということも、有効なのではないかなと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** この観点の他に、協議したい内容はございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** なければ、これより家庭の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

**吉田教育長** 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

**吉田教育長** 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

**吉田教育長** それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

**吉田教育長** 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計にあたりまして、立会人として、荒木委員、それから野口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

**吉田教育長** 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価の合計点を読み上げます。

2番 東京書籍 22点

9番 開隆堂出版 30点

以上のとおり、家庭の教科用図書は、9番、開隆堂出版を採択することに決しました。

次に、図画工作の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

**吉田教育長** 図画工作の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

**松本選定委員** まず、調査の観点1内容について、開隆堂では、(1)知識及び技能が習得できるようにするための工夫として、学習のめあてを、形や色、方法や材料を知って工夫する力、試したり見つけたりして考えたり、思いついたりする力、心を開いて楽しく活動し、友達と関わり協力し合う力の3つの力で示し、またその題材での重点を赤文字と下線で分かりやすく示しています。また、制作の様子や完成した作品等、文章や写真に表現することで、児童の意欲を引き出す工夫がされています。さらに、巻末には学びの資料という各学年で使用する用具や材料の使用方法を丁寧にまとめられたページがあります。

(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫として、3つの目標に対応したキャラクターが具体的なアドバイスを提示したり、参考作品を多く掲載したりと、イメージが浮かびやすい構成となっています。また、アイデアシートやQRコードからのワークシート等が補助的な役割を果たしています。

(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫として、活動の様子や作品が紙面中央にあったり、楽しい題材名やQRコードが掲載してあったりと、つくり出す喜びを味わう工夫があり、また多様性を尊重する態度や協働する力を養うために、①多様性を意識する内容、②身近な他者から社会全体へと学年を追うごとにテーマを広げていく構成、③地域のよさを生かした造形活動、④他教科や地域に目を向けさせるような言葉の投げかけ等の4つの工夫が見られます。さらに、豊かな心を育むために、各学年に友達と協力して表現する造形遊びの題材が設定されています。

(4) 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫として、世界各国の多様な作品が児童の活動と関連して扱われ、表現と鑑賞のつながりが工夫されています。また、鑑賞のポイントを発達段階に応じて提示した鑑賞の題材や、小さな美術館というページが設定してあります。さらに、共通事項の指導では、学習のめあてや振り返りに常に「形や色」という言葉が使われ、活動を通してしっかりと身につくようにしてあります。

(5) 用具の安全な取り扱いについて指導するための工夫として、正しい使用方法が理解しやすいように、巻末の学びの資料ではイラストや写真を使い、場面ごとに枠で区切る等の工夫や、余白を生かしたシンプルで見やすい構成がされ、また制作時に使用するとよい用具を教科書左上にアイコンで提示してあります。

次に、日本文教出版では、(1) 知識及び技能が習得できるようにするための工夫として、造形的な見方・考え方のヒントとなる言葉から、身につけさせたい3つの資質、能力を示しています。また、いきいきと活動する児童の姿の写真から、知識・技能が高まるような紙面になっています。図工の見方というページでは、色や形、造形的な特徴等に気づくヒントが与えてあります。さらに、ページ下に扱う用具が示されており、巻末にある材料と用具の引き出しのページを参照でき、内容も短い言葉での簡潔な表現で掲載されています。

(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫として、具体的なアドバイスをシンプルなマークや電球マークで提示したり、参考となる名画、名品の拡大表示をしたりと、イメージが浮かびやすいようにしています。また、科学的な視点で物事を捉える力を養う図工の見方や、イメージマップ等が補助的な役割を果たしています。

(3) 学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫として、児童が全身で材料を味わう姿、協働する姿等を掲載したり、基底材の形や材料、大きさ等の違う様々な作品が掲載してあったりと、つくり出す喜びを味わえる工夫があります。また、多様性を尊重する態度や協働する力を養

うために、①諸外国の児童作品、②伝統的な文化や工芸の紹介、③資源や生活を豊かにするデザイン、④他教科と4つの工夫がごさいます。さらに、他者理解を育むために、友達の作品を見て話そうという題材が各学年に設定してあります。

(4) 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫として、どの題材も絵・鑑賞、工作・鑑賞といったように、表現と鑑賞を一体的に扱う工夫がされ、また巻末にアートカードがあり、発達段階に応じた鑑賞のポイントを4コマ漫画等で分かりやすく紹介されています。さらに、共通事項の指導では、導入の言葉がイメージしやすい文言になっており、〇〇のヒントと示した形や色等を捉えながら活動できる工夫もされています。

(5) 用具の安全な取扱いについて指導するための工夫として、正しい使用方法が理解しやすいように、巻末の材料と用具の引き出しでは、イラストや写真を使い場面ごとで枠で区切る等の工夫、また制作時に使用するとよい用具を教科書左下にアイコンで提示しています。

次に、調査の観点2資料について、こちらは同じような題材であるため、開隆堂の3年、4年の下の42ページ、日本文教出版の3、4年の下の48ページを見比べながらお聞きください。

開隆堂では、どの題材も見開き2ページに、左上から学習活動の一連の流れが一目で分かるようになっていきます。また、発想や活動のヒントとして、作者のコメントや児童のつぶやきが掲載されています。さらに、QRコードにはその題材に必要な情報がデジタルで集約されています。

日本文教出版では、どの題材も同じように見開き2ページに、左上学習活動の一連の流れが一目で分かるようになっていきます。また、児童の視線や持ち手のクローズアップ等の写真から、活動の意欲を高める工夫がされ、さらにQRコードには授業で利用できる多様な動画コンテンツが集約されています。

調査の観点3表記・表現について、開隆堂では、(1) 用具、漢字、記号の使用及び文章表現は発達段階に合わせて工夫され、リード文は簡潔でイメージが膨らみやすいです。また、呼びかける文末表現が多く、心情に寄り添っており、さらに理解しやすいように分かりやすい記号を付けて表しています。

(2) 字体はユニバーサルデザインフォントを使用し、レイアウトは白色度が高く、作品の持つ微妙なニュアンスや質感が鮮やかに再現され、必要な情報は上下にまとめられていて、また、改行位置の工夫や線を入れての図版の区別、そして総ルビや図版番号を付す等の配慮がなされています。

日本文教出版では、(1) 用具、漢字、記号の使用及び文章表現は、発達段階に合わせて工夫され、文字の大きさや表現によりイメージが膨らみやすく、また気づきや工夫の児童のつぶやきから活動へとつながりやすくされています。

(2) 字体はユニバーサルデザインフォントを使用し、レイアウトは色の濃淡だけでなく、斜線により区別され、全ての場面が等しく学べるようにまとめられています。また、多様な児童が

主体的に取り組めるよう、同一題材の中で複数の実践パターンが示されている等の配慮がされています。

最後に、調査の観点4総括について、開隆堂では、発達段階に応じた系統性を4つの視点、心情、技法、関心、意欲で構築し、有効な積み重ねと転移が図れるようにしています。地域性の配慮として、地域の行事や伝統工芸等とを組み合わせた取組や、自分たちの生活を豊かにする取組を紹介しています。他教科との関連では、低学年では生活の関連を図る題材が多く、また総合的な学習の時間や社会科、特別活動等の関連を意識して内容を設定しています。中学校美術との連携では、水墨画の実践や屏風絵の鑑賞、タブレット端末やICT機器の使い方等の内容を設定してあります。

日本文教出版では、題材は5つの分野で構成され、発達段階とともに系統的に配列されています。地域性の配慮として、地域の自然や文化について考えながら活動する事例が紹介されています。他教科との関連では、低学年では生活科との関連を図る題材が大きく、また主要4教科に関わる題材や特別活動や総合的な学習の時間と関連させた事例も掲載されています。中学校との接続ページが設定され、小学校での学習を振り返るとともに、中学校への学びのつながりを意識することができ、美術科、技術科との関連やICT機器の活用に配慮したページが設けられています。

**吉田教育長** ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

ご意見等ございますか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** それでは、ご説明ありがとうございました。

まず、選定委員会としてどの教科書を推薦するのかお話を聞えますか。

**佐々木選定委員長** 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が2種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、9番、開隆堂80点、116番、日本文教出版57点です。

**吉田教育長** 他にございますか。

山口委員。

**山口委員** 選定委員会では、どのような話題が出たのでしょうか。

**松本選定委員** 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1点目は、児童が自分の思いを自由に表現することをサポートするような工夫について、各社で工夫があり、キャラクターを活用したり、子どもが活動している写真を掲載したりしてイメー

ジを持たせています。

2点目は、用具や材料の扱いの記載について、各社単元に記載があるとともに、巻末に詳しく記載があり、小中連携の観点から中学校で扱う道具についても記載されていることが出ました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えていただければと思います。

**松本選定委員** 学校での推薦では、開隆堂を推薦する学校が最も多く28票、次いで日本文教出版が16票という結果でした。

推薦理由としましては、開隆堂では、めあてや準備するもの、注意事項などが見やすく提示されている。児童の興味を引く題材や、想像力を膨らませる写真が多く掲載されている。

また、日本文教出版では、児童が楽しそうに活動する様子が写真で示されておりイメージしやすい、様々な技法が紹介され、子どもたちの学習意欲を高める構成となっている等の意見がありました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** それぞれの教科書に掲載されている作品数に違いはありましたか。あったとすれば、それはどんな特徴だったか教えてください。

**松本選定委員** 作品数には違いがありました。開隆堂では、作品数、題材だけを拾いましたところ、520。日本文教出版については、作品数が477ということで、約50の差がありました。

特徴としては、開隆堂については、作品に必ず番号が振ってあります。そして、作者の工夫した点がコメントしてあります。

日本文教出版の特徴としては、作品のアップ写真が幾つか出ているというところがありました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** これまでも参考になったのですが、1号委員の保護者の方からはどんな意見が出ていますでしょうか。

**佐々木選定委員長** 1号委員の保護者の方からですが、まず図工の場合は絵を描いたり、それからものをつくったりというものがどうしてもイメージしやすいのですが、鑑賞というものがございいます。絵を描いたりものをつくったりするだけではなくて、鑑賞を通して視点の違いを尊重するという活動がとても斬新だったというご意見。それから、友達と作品を見合って話し合うという活動も、とてもいい活動だというようなご意見が出ました。

**吉田教育長** よろしいでしょうか。他にございますか。



〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 他になければ質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

荒木委員。

**荒木委員** どちらの教科書も楽しそうな題材名と、その下にリード文があり、作品の写真だけでなく、創作中や鑑賞中の表情豊かな子どもたちの写真が豊富で、子どもたちの活動の意欲が高まると思いました。

また、その題材で使用する材料や用具をアイコンで示し、用具の使い方を巻末の該当ページで確認できるようになっています。安全面についても示されており、日本文教出版は多くのページに「気をつけよう」があり、安全指導を掲載しています。

開隆堂は、各題材の「学習のめあて」の中で、特に大切なめあてをアンダーラインつきの赤字で示していて、その題材で身につけたいことが明確になっていると思いました。また、作り方の解説が充実していて、分かりやすいという印象を持ちました。それから、じっくりとよく見ていくと、掲載されている作品のタイトルの下にかぎ括弧で、何をイメージしてつくったのかや、何を表現しているのかななどのつくり手の思いが書かれていることが多く、こういった細やかな工夫にも芸術分野において大切な発想のヒントがたくさん溢れていると思いました。

**吉田教育長** ありがとうございます。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 荒木委員さんや、あと保護者の方の意見と重なるのですけれども、どちらも作品紹介のページが小さな美術館とか教科書美術館というところがあって、特に開隆堂には、一つひとつに鑑賞のポイントがついていて、有名な作品を大人が見ると、普通に見てしまうのですけれども、初めてこれに触れる子どもたちがこれを見て、導入となるようなコメントがついていても、これに縛られる必要はないと思うのですけれども、そういうきっかけが全てに入っているのは、美術館の導入としては非常にいいのかなと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** 開隆堂は、ただ図画工作だけではなくて、教科書の名前が、1、2年生の上は「わくわくするね」、下は「みつけたよ」。その後、「できたらいいな」、「力を合わせて」、「つながる思い」、「心をひらいて」。日本文教出版は、もうただ図画工作なのです。右上に小さく試す、見つけると書いてあるのですが、このテーマのつけ方については、選定委員会では何か意見とかあったのでしょうか。あったら教えてほしいのですが。もしかしたら学習指導要領に書いてあるのかなと思

ったのだけれども、見つからなくて、この的確さというか、表現が私はすごく好きで、子どもたちにダイレクトに訴えかけるなと思うのです。

**吉田教育長** どうでしょうか。選定委員会で話題になったようなことはございましたか。

**佐々木選定委員長** こちらについては、選定委員会でも話題になりました。

片方にはついていて、片方にはないということで、やはり副題というか、「わくわくするね」とか「みつけたよ」というのは、やはり子どもたちが心から発するもの、うちから出てくるものかなということで、そういうものがあると、これからこういったことをするのだからって表紙を見ただけでも意欲が湧くのかなというように、話題としては上がりました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 日本文教出版は目次のところに、鑑賞する活動、立体に表す活動という形で示されているのですけれども、めあてといたしますか、目的が示されています。一方、開隆堂に関していいますと、3つのキャラクターが示されていて、例えば黄色だと試したり、見つけたり、考えたり、思いついたりする力とか、ほわっとするようなイメージがあって、美術、芸術の作品らしいなという印象を受けました。

**吉田教育長** 私からも申し上げます。なかなかどこがどういうふうに違うのかって明確に言い表せない感じがあるのですけれども、図画工作について、児童はつくり、あるいはつくり変え、そしてつくるといった連続性の中で、例えば友達と対話をしながら自分が表現したものを自分なりに見立てて、そこにさらに付け加えると、オリジナルなものを表現していくものだ。また、鑑賞を通して気に入った表現を取り入れて絵にしたりもするのだと言われているわけですが、こうしたことへの工夫についてどうなのかなと見てみました。日文の3、4年の下の造形遊びですが、光と影から生まれる形と、開隆堂の図画工作3、4年の上の16ページに影の変身があって、随分取り上げ方が違うのだなと思いました。つくり、つくり変える、そしてつくる、そしてオリジナルなものに表現していくといったときに、ではどちらがどちらなのだろう、あるいは準備もありますよね。どっちがいいのだろうかといういろいろ考えました。

それから、絵ですけれども、日文の5、6年の下の52ページ、開隆堂の5、6年の下の28ページですが、まず日文の感じて考えてというところで、上のほうに絵、それから鑑賞と書いてありまして、次に開隆堂の下のほう、見て感じて私の表現というのがあって、こちらは鑑賞とは書いていないのだけれども、でも私の子どもの頃は考えられなかった。印象派の絵を見て自分なりに取り入れるということですよ。それから、キュビズムって言ったらいいかどうか分かりませんが、そういったものから自分なりに取り入れるという、これはすごいなと思いました。こういうことが子どもたちは、割と自分なりに吸収してしまうのだということを先ほど申し上げました。両方を比べてみて、どっちが見通しを立てやすい構成となっているのか、発想のきつ

けとなる手だてはどうか。見た目の分かりやすさ、あるいは表現と鑑賞のつながりというの  
ですか、そういう観点で見てみるとどうか。この点で報告書は一体どう評価しているのか、  
こういった点を見ていく必要があるのかなと思いました。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** なければ、資料、表記・表現、それと総括については一括して協議いたします。

ここについて何かご意見等はございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** それでは、私5、6年の下の教科書で、同じようなことで比べたらいいか  
なと思って比べてみたのですけれども、例えば開隆堂の22、23ページ、そして日本文教出版の26、  
27ページ。開隆堂は私のお気に入りの場所、そして日本文教出版は私の大切な風景ということで、  
同じような題材なのかなと思って比べてみたのですけれども、開隆堂は大分めり張りがあって、  
大きく作品を取り上げているなとは思いました。この下駄箱の風景が一つ参考として、子どもた  
ちに鑑賞させたいのかなという意図が伝わりやすいと思いました。

日本文教出版も、この絵が表紙になっていて大きく取り上げているので、同じようなのかなと  
は思うのですけれども、ただ、どこの学校でも目にするとところに目をつけて絵にするには、開隆  
堂のこの絵は明るさもあっていいなという感じは受けました。個人的な好みになってしまうかも  
しれませんけれども、ただ、日常的な風景としては、たくさん取り上げているとは思いました。

作品数についても、先ほどお話があったので、そういったところも一つの視点なのかなと思  
いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですが、この観点以外に協議したい内容はございますか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 他にはないようですので、これより、図画工作の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

**吉田教育長** 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いもの  
を採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

**吉田教育長** 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、山口委員、それから東委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

9 番 開隆堂出版 30 点

116 番 日本文教出版 22 点

以上のとおり、図画工作の教科用図書は、9 番、開隆堂出版を採択することに決しました。

続いて、体育の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 体育（保健）の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

梨本選定委員 保健に関しては、前回よりも1社増えて6社でございます。観点1、こちらは6社とも学習指導要領に示された学習内容にのっとり工夫されていました。

1 内容（1）知識及び技能につきましては、各社とも用いる用語は異なりますが、いずれも課題を発見、把握から、その解決、まとめ、知識の活用まで学習過程が明確であり、知識、技能の習得に向けて円滑な学習になるよう工夫されています。

（2）から（5）につきましては、各社の5、6年用の教科書を確認しながらご説明させていただきます。

まず、東京書籍です。5ページをご覧ください。右上に示されたように、ステップ1からステップ4の学習課程が設定され、思考力、判断力、表現力が育成されるよう工夫されています。

続いて、6ページをご覧ください。ここにあるとおり、各項の2ページ目の冒頭に学習課題が明確に示されており、自分と同年代のガイドキャラクターによる問いかけを通して、自分ごととして課題を捉えることができるように工夫されています。

12ページをご覧ください。トップアスリートのインタビューを多数掲載することや、スポーツの意義を示し、資料を用いることにより運動と健康との関係を具体的に考えられるよう工夫が見られます。

続いて、大日本図書です。全体を通して、課題を発見する、解決する、学習したことを生かす

などの様々な活動を通して思考力、判断力、表現力が総合的に深まるよう工夫されています。具体的には、教科書10ページをご覧ください。このように小単元の導入では、使おうとして、身近な題材や自己の生活を振り返るような活動が設けられ、課題を自分ごととして捉えられるようになっていきます。

7ページをご覧ください。巻頭として、超一流のアスリート等の夢と健康についての紹介があります。これにより、運動と健康について具体的な考えが持てるよう工夫が見られます。具体的には、5、6年用ではメジャーリーガーの大谷翔平選手を、3、4年用ではオリンピック卓球金メダリストの水谷隼選手を取り上げています。

続いて、大修館です。8、9ページをご覧ください。9ページに話し合おうとあるように、全体的に対話型の学習を重視しています。そこから10、11ページのように、調べる活動、考える活動と順を追った流れになっており、思考、判断、表現がバランスよく深められるようになっていきます。また、専門家にインタビューというコーナーがあります。

53ページをご覧ください。このように、学習内容と関わりの深い人物の話を掲載することで、健康、安全についての理解を深めやすくなっています。このコーナーでは、3年、4年用の教科書では児童に身近な養護教諭と学校栄養士を、5、6年用ではワクチンの専門家と学校歯科医を取り上げています。

59ページ、61ページをご覧ください。このように、コラム「体育の窓」を各所に設け、運動領域の学習内容を保健領域で生かせるように工夫がなされています。

続いて、文教社です。4ページをご覧ください。右上部分に本時のメニューを示し、見通しを持たせ、学習内容を示したミッションと学習活動を示したステージで1時間の授業が構成されており、児童が意欲的に取り組めるよう工夫されています。

19ページをご覧ください。このように、私の〇〇宣言では、学習したことを基に何ができるのか、自分にはどんな方法が適しているのか、理由をつけて記述し、話し合いながら考えが深められるようになっていきます。さらに、3、4年用の教科書では、この単元末に私の健康宣言、私のすくすく宣言が章のまとめとして示され、運動と健康に関連づけた目標が記述できるようになっています。

続いて、光文書院です。12、13ページをご覧ください。考えようにあるように、習得した知識を活用して考える活動を多く取り入れています。さらに、13ページの一番下、自分の生活に当てはめて考える活動、学んだことを生かそう、伝えようを毎時間の最後に設定することで、思考、判断、表現の育成を図っています。

15ページ中段、右側にスクールカウンセラーに聞くのコーナーがあるように、警察官や保健センター職員、医師、歯科医師など、学習内容に関わりの深い人の話を掲載したり、16ページ下段、科学の扉のコーナーにあるように、科学的な資料を掲載したりすることにより、健康、安全につ

いての理解を深めやすい構成が見られます。

最後に、表紙の裏をご覧ください。このように、トップアスリートや音楽家の言葉を掲載したり、他教科だけでなく体育とのつながりを示したりすることにより、運動と健康、心と体について考えられるよう工夫が見られます。

最後に学研です。54、55ページをご覧ください。上段左側の絵にあるように、学習の進め方を自分で考える、友達やみんなと考える、身につけたことを生かすの3つのピースの構成によって自分の考えを形成したり、深められたりできるよう工夫されています。このピースの内容は、各単元の内容によって変化します。

続いて、55ページ中段、こちらにある科学の芽のコーナーで科学的な資料を掲載したり、57ページ、こちらでは新型コロナウイルスを取り上げていますが、保健の箱のコーナーで関係資料を提示したりすることにより、健康、安全についての内容の理解を実践的に深められる構成になっています。さらに、運動と健康について考える工夫としては、巻頭の表紙裏面、運動や生活についての写真を多数示し、健康について考えさせています。

また、7ページ下段の右側をご覧ください。このように、各章の扉につなぐの項目を示し、他教科だけでなく体育とのつながりを示すことにより、運動と健康について考える工夫がされています。

続いて、観点2資料では、6社とも共通な点が2点ございました。

1点目は、児童の理解につながるようなグラフや写真、イラスト、キャラクターの吹き出しなどの資料が数多く用いられています。

2点目は、学習を深めるための動画や学習クイズのコンテンツ、関連サイト等へつながるQRコードを用いていることが挙げられます。QRコードの掲載数は、東京書籍が94と最も多く、続いて大修館が62、大日本、光文、学研はおよそ40、最も少ない文教社では32でした。

続いて、観点3表記・表現です。東京書籍につきましては、未習の漢字についてはふりがなが振ってあり、初出だけでなく必要な漢字全てにつけられています。また、教科書内の文字は、発育、発達段階に応じて大きさを選定しており、読み違いを起こしにくいユニバーサルデザインフォントを積極的に採用していました。全ての児童の色覚特性に適応するように、配色も併せて読みやすく、児童が学習しやすいように工夫されています。

大日本図書につきましては、漢字は原則的に前年度までに学習した漢字を使用しています。配当学年以上の漢字では、漢字で表記したほうが分かりやすい語彙は、見開きページごとにふりがなをつけて使用してありました。図版やグラフなどは配色は、誰にでも見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮されていました。

大修館につきましては、未習の漢字についてはふりがなが振ってあります。また、ふりがなは初出だけではなく、必要な漢字全てにつけられています。読み違いを起こしにくいユニバーサル

デザインフォントを積極的に使用しており、図版やグラフなどの配色はカラーユニバーサルデザインを用いています。

文教社につきましては、漢字は原則として該当学年までに配当された教育漢字を使用しています。未習の漢字についてはふりがなが振ってあり、重要な語句は太字で示され、フォントも変えています。書体や文字の大きさ、色はユニバーサルデザインを採用し、読みやすく分かりやすいものになっていました。

光文書院につきましては、未習の漢字についてはふりがなを、当該学年以降に学習する漢字については、初出だけではなく、その都度ふりがなをつけ、児童の読みの負担が軽減されています。重要な語句は太字で示され、関連するページも明示されています。文字は、読み違いを起しにくいユニバーサルデザインフォントが採用されています。

学研につきましては、未習の漢字についてはふりがなが振ってあります。見出しには、児童が何をするのかを捉えやすくするための文字の色を変えたり、アンダーラインが引いてあったりし、図表などの文字では、読み違いを起しにくいユニバーサルデザインフォントを積極的に取り入れていました。

観点の4総括でございます。まず、東京書籍です。こちらは4ページをご覧ください。下段右側、つなげように、他教科との関連が章扉の中に示されています。また、6ページ下段左側では保健4年と示されているように、本文ページの中にも同様に示されていて、カリキュラムマネジメントの一助となっています。さらに、4ページに各章扉にSDGsとの関連も明確に示されています。このように、今日的な健康課題に対応した資料が掲載されている等の工夫が見られます。

次に、大日本図書です。10ページ、下段に国語とあります。このように、カリキュラムマネジメントや小中連携に生かすことができるよう、他教科、他学年との関連が示されています。また、3、4年生用の教科書では、卓球の水谷選手の話としてオリパラ教育、または食育等の現代的な諸課題を通して、多角的に学べるよう工夫が見られました。

続いて、大修館です。7ページ章扉では、藤井聡太プロ棋士を取り上げていますが、各章にも同様に著名人との対話形式で、健康の大切さや健康についての考え方を理解させるように工夫が見られます。また、運動領域の学習内容を保健領域で生かせるように、コラム「体育の窓」が各所に設けられ、体育と健康が密接に関係していることを理解できるように工夫されています。

続いて、文教社です。先ほどもご覧いただきました4ページ、5ページにありますとおり、学習内容を示すミッションと学習活動を示すステージの2ステップで構成され、各章のまとめには〇〇宣言を記入することで、より実践力を高めるつくりになっています。各章の扉には、イメージしやすい写真や説明が配置され、主体的に学習が始められるよう配慮されているところも特徴です。

続いて、光文書院です。7ページをご覧ください。このように、各章の扉にこれから学習する

内容が4コマのストーリー形式で示されていて、学習内容を身近に感じられるよう工夫がされています。8ページ、10ページにあるとおり、それぞれの下段には他学年や中学校との関連、他教科との関連が具体的に示されていて、教科等横断的に取り組めるよう工夫がされています。

最後に学研です。健康課題を多様な学びで解決できるよう工夫されています。具体的には、7ページをご覧ください。こちらの章扉には、他教科との学習との関連づけができるよう、つなぐのマークが示されています。また、9ページから10、11ページと順に見ていただくと分かりますとおり、日々の生活行動を健康との関連から捉えることができるよう、振り返り、チェックする内容等が掲載されており、全体的に文章による記述欄が数多く設定されているのが特徴です。

**吉田教育長** ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

何かご意見ございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** まず、選定委員会として、どの教科書を推薦するのかお話いただけますでしょうか。

**佐々木選定委員長** 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議し、協議終了後、選定委員16名全員が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍74点、4番、大日本図書44点、50番、大修館45点、207番、文教社35点、208番、光文書院59点、224番、学研58点。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に、74点の東京書籍、59点の光文書院、58点の学研を推薦いたします。

**吉田教育長** 他に。

山口委員。

**山口委員** 選定委員会では、どのような話題が出たのでしょうか。

**梨本選定委員** 選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。

1つ目は、健康の課題を自分のこととして捉えるための工夫があるか。各社導入の課題を見つけてさせる部分で、自己の生活を振り替えさせるような工夫が見られるという点です。

2点目は、コロナ禍が続いた中で、子どもたちが抱える不安や心配についての配慮として、高学年で心の健康について学ぶ単元があり、直接電話でつながるSOSダイヤルなどの電話番号が記載されているということが出ました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

東委員。



**東委員** 学校の調査報告書では、教科書会社の推薦が多かったのはどこで、その主な理由というのは何であったのか教えてください。

**梨本選定委員** 学校からの推薦では、多い順に東京書籍23票、光文書院12票、学研6票という結果でした。

各社の推薦理由としては、東京書籍では、健康について自ら取り組み、考え、実践していく学習の進め方が提示されている。選択式の導入で取り組みやすい。

光文書院では、ソーシャルスキル等、現在に合った内容が各時間に見つけようを設定し、自ら健康課題に気づくことができる。

学研では、写真や絵、資料と記述欄のバランスがよく、自分がどう考えたかを書ける欄が豊富に設定されているなどの意見がありました。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますか。

荒木委員。

**荒木委員** 新型コロナウイルス感染症について、各社の取扱いはいかがでしょう。

**梨本選定委員** 6社とも感染症に関わる単元の中で、インフルエンザやエイズとともに発展として扱っています。各社とも、新型コロナウイルスについての解説、特徴について、1ページから2分の1ページ程度で取り上げていました。

特徴的なものとしては、大日本図書では東京オリンピック・パラリンピックへの影響について、東京書籍や大修館では感染症に関する正しい情報を得ることの重要性、光文書院では予防対策に加えて、差別をしないことの重要性についてなど、各社それぞれの違う切り口で取り上げています。

学習指導要領では、病原体が主要因となって起こる病気の予防として、インフルエンザ、麻疹、はしかです。風疹、結核などを適時取り上げ、という文言が見られます。そのため、各社ともインフルエンザを中心に取り上げています。特徴的なのは、東京書籍と大修館は本文の文中で新型インフルエンザという文字を取り上げていました。文教社は3、4年生の教科で、やはり新型インフルエンザを取り上げています。特徴的なところは以上です。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 選定委員会には保護者の方がいらっしゃいますが、どのような意見が出たか教えていただけますでしょうか。

**佐々木選定委員長** 親としては、心の健康が気になっている。子どもたちが客観的に自分の心の成長を見ることができる単元があって、悩んでいるのは自分だけではないと思えるのは、大変にありがたいことだというお話がありました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですので、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容について、ご意見はございますか。

渡辺委員。

**渡辺委員** まず、選定委員会でも話題になりましたとおり、やはり健康に関しては、自らにその課題を引きつけて考えて、そして解決をするということが大切だと思います。その視点で教科書を見てみますと、5、6年生の教科書なのですけれども、まず各章扉を見ていただきたいのですが、例えば東京書籍の44ページ、病気の予防として、このような形で取り上げられていたり、光文書院は4コマ漫画で、その課題について暗に提示したり、大修館についてはチャット形式で、会話からその課題を取り上げたりしているのですけれども、私としては学研の49ページなのですけれども、これが非常にすっきりしていて、課題を捉えやすいなという印象を受けました。

そして、さらに同じく学研の50ページ、まず振り返りから自分のことを思い出してみようという形で、振り返りから入って、そして予想してみようということで、原因と思うことを書いてみようという形で、すごく子どもたちに考えさせるような形式になっていて、その後はどの教科書も話し合いであったり、言葉で伝えてみようという形になっているのですけれども、形式としてはよいなと思いました。

もう一点なのですけれども、3、4年生の思春期の体の変化について各社を調べてみました。そうしたところ、現在使われている東京書籍なのですけれども、34ページに男の子は海水パンツ、そして女の子はつなぎの水着を着ているのです。ほかの発行者の会社は、全て黒のつなぎであったり、青色のTシャツと短パンであったり、体育着であったりという形だったのです。印象としては、このぐらいの時期になりますと、やはり自分の性に違和感を持ったり、そういう子も出てきますので、子どもの中には少し不安になる子もいるのかなという印象を受けています。

そして、同じく学研の3、4年生の32、33ページを見ていただきたいのですが、32ページにその予想ということで右のイラストを見て問いかけをしている。この問いかけがすごくよく考えられているなと感じています。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか、また関連してでも構いませんので。

山口委員。

**山口委員** 保健体育というと、体のことと心のこと、それぞれいろいろ個別に学ばなければいけないことが多いところだと思うのですけれども、渡辺委員さんが今おっしゃったことともつながるのですけれども、まず各章の扉のところで興味を引くような工夫がされているのは非常に、印象

的だったのは東京書籍の先ほどのフォトランゲージを使ったもの、それから光文書院の4コマ漫画から始まる、そこからステップごとにうまくまとめて、その都度考えさせてという流れが割ときれいになっていて、学習しやすいのかなと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 私、学習過程については、各社とも明確にしているなと思いました。

それと、その中で書く活動を多く取り入れているのが、東書や大日本図書、あるいは学研なのかなと思います。その中で、現場としては東書が一番多かったという話でしたけれども、東書のほうでやはり学習課題が非常に明確ではっきり出ているのが、きっと現場では使いやすいのかなという印象を持ちました。

また、新型コロナウイルスにつきましては、光文書院でかなり詳しく、光文書院はめり張りを付けていて、子どもが本時で学習するようなことについては大きな文字で、解説のペースではかなり小さな字にして、内容を濃く書いているなという印象を受けました。

また、性の多様性につきましては、3、4年生の教科書のほうで各社とも扱っていて、やはり今後の大人になっていったときの見方を育てる上で、役立てなくてはいけないのだろうなと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 各社様々な工夫が見られました。東京書籍はスキルマークがあり、例えば3、4年の20ページ、手の洗い方、24ページ、コンピューターの使用と健康など、心や体の健康や安全を守るために身につけておくスキルが大変分かりやすく掲載されている点、また、記入するページが豊富であることもよいと感じました。

**吉田教育長** 東委員。

**東委員** 本当にそれぞれいろいろ工夫されているのですが、特に私は、光文書院がインターネットの依存症のことを1ページ割いて取り上げていて、ほかも見ただけけれども、あまり取り上げられていなくて、すごく最新のことを取り上げてくれているので、教科書として採択していくにあたり、いい題材がありそうだなとすごく思いました。それが一番気づいたところなのですけども、やはり全体的に総論的に知ることと、すごく深めて発展的に学ぼうよということを、きちんと分けて書いているのが特徴だなと思いました。

確かに学研もすごくバランスはよくて、私は一番読みやすかったというのはあるのですが、選定委員会では東京書籍が多かったのも、いろいろそれぞれ特徴があって、どれがいいのかなって少し難しいですね、感想としてそういうところです。

1点だけご説明の中で、一流アスリートという言葉があったのですが、資料ではトップアスリ

ート、教科書ではアスリートと書いてあるのですが、すごく難しいなと思っていて、採択された後ずっとトップなのでしょうかとということ、採択時点ではそうなのだろうけれども、これはすごく難しいなと思っていて、あまり大きくトップアスリートとして取り上げてしまうと、4年間使っていく中でどうなのだろうかと少し思った次第です。その辺も考えながら投票いたします。

**吉田教育長** これは、教科書採択にあたってご意見をいただく中で、前にも出た課題だろうと思いますけれども、どうでしょうか、皆さん。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 今東委員さんがおっしゃったことは、私も同感なのです。光文書院は、やはり先ほど張りがあるのではないかというお話ししたのですけれども、コロナにしても、差別はいけないよというところまで踏み込んで記載しているので、熱心に取り組んでいらっしゃるのだなという印象を受けました。だから、その辺の観点はあるなと思いました。

**吉田教育長** 教科の狙いから考えて、健康、安全については実践的に理解することが重要だと思っています。ただ、その健康という定義が、今ICT機器が出てきているので、それを健全に使いこなすというのは、どういうのが健全に使いこなすのか分からないけれども、そういった視点で取り上げていくということは、やはり重要なことかなと思いました。

そのことを子どもたちに意識させるためにはどうしたらいいかということなのですが、各社ともやはり学習過程をかなり工夫して意識づけを図る、あるいは実践化を図ることを進めているのだろーと思います。その中で、東書の例えば5、6年生の9ページでは、章ごとに右上のところに、気づく、見つける、調べる、解決する、認める、伝える、まとめ、生かすということで、これが繰り返し章ごとに出てくるのです。これは、子どもたちにとっては非常に分かりやすい内容になっていると思いました。

それから、9ページの心の中にQRコードが出てくるのですけれども、これも見てみたのですが、どこでも扱っているのかと思いますけれども、発表とそのときの脈拍を測る動画、これが視聴できるようになっていて、心と体のつながりをたやすく気づけるような、分かりやすく気づけるような工夫がありました。

さらに、10、11ページを見てみると、四角の中に言葉を入れることによって、例えば恥ずかしいときは顔が赤くなるとか、そういうふうに入れていくのだろーと思うのですが、悲しいときは涙を流すとか。右側のほうに行くと、寝不足のときとかおなかが痛いとき、こういうところにICT機器を使い過ぎたときとか入れておくと、また違うのかなと思いましたけれども、四角に記入することで、体験に基づいて変化を調べやすくしているという工夫が見られたと思います。

また、本市ではがんが市民の疾病による死亡の最大の原因となっていること、したがってその予防と早期発見に寄与していくことなどについてうたっているがん対策推進条例を定めているのですが、がんについては、生活習慣病だけではないとは書いてありますけれども、生活習慣病の

一つとして各社とも取り上げています。東書では5、6年の60ページ、そんなたくさんページを割いているわけではないけれども、割とページを割いていて、まとめて取り上げているなど思いました。63ページの肺がんの図は、ほかの教科書でも取り上げていますけれども、比較的まとめて書かれているのかなと思って、データの的にも視覚的にも大きく取り上げているように思いました。

他にございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 今までの話を聞いていて、やはり全体的な課題について詳しいところ、そして各活動についてもやはり本市としては入れていきたいという、現場の願いがあるのかなということと、それから学習過程もはっきりしていたほうがいいだろうという願いがあって、結果として東書がいいのではないかという意見が多いのかな、という印象を受けました。

**吉田教育長** 内容について、他にご意見ございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 1点お伺いしたいのですが、実際の学校現場では、この教科書にじかに書き込むのですか。そういう形でしょうか。

**梨本選定委員** 保健の時数も限られているのです。なので、ワークシートを用意して進める場合と、教科書に書き込んでしまう場合、それは併用しながら実際使っています。

**渡辺委員** そうですか。

**吉田教育長** よろしいですか。

**渡辺委員** はい。例えば何か友達に教科書忘れてしまったから貸してとか、貸してほしいとか、そういう貸し借りとかというのがあると、書き込みだとやはりまずいかなと思ったりしたものから、お聞きしました。

**吉田教育長** 内容によって、デリケートな部分は気をつけなければいけないのですよね。採択のことで言うということではないのですが、ご指摘のとおりだと思います。

内容について、他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** それでは、ないようですので、次の観点として資料、表記・表現、総括については一括して協議することといたします。

この点についてご意見ございますでしょうか。

よろしいですか、大体内容含めてのお話になったかと思いますので。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** なければ、この観点の他に協議したい内容はございますでしょうか。

こちらもよろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** ないようですので、これより体育（保健）の教科用図書に係る採択に入ります。  
選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

**吉田教育長** 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。  
それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

**吉田教育長** 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

**吉田教育長** それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

**吉田教育長** 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計にあたりまして、立会人として、野口委員、それから荒木委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

**吉田教育長** 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者名、評価点の合計点を読み上げます。

|         |       |       |
|---------|-------|-------|
| 2 番     | 東京書籍  | 2 9 点 |
| 4 番     | 大日本図書 | 1 8 点 |
| 5 0 番   | 大修館書店 | 1 8 点 |
| 2 0 7 番 | 文教社   | 1 8 点 |
| 2 0 8 番 | 光文書院  | 2 4 点 |
| 2 2 4 番 | 学研    | 2 5 点 |

以上のとおり、体育（保健）の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

---

#### ◎休憩の宣告

**吉田教育長** それでは、ここで暫時休憩といたします。次の特別の教科、道徳については、16時15分から再開することといたします。

休憩 午後 4 時 0 5 分

◎開議の宣告

**吉田教育長** 休憩前に引き続き会議を始めます。

特別の教科、道徳の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

**吉田教育長** 特別の教科、道徳の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

**猪俣選定委員** 道徳については全部で6社ございますが、各社とも学習指導要領、特別の教科、道徳の目標に基づき、児童が問題を自分ごととして考え、友達と考え議論する道徳の実現に向けて編集されておりました。

はじめに、1内容（1）道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるかです。児童が道徳での学びを自分ごととして考えるには、道徳を学ぶことに意欲を持ち、友達と考え議論する中で、自分の中にある様々な心について知ること。また、道徳の授業を通して自分を見つめ、自分がよりよく生きることにつながるという実感を持つことが大切であると考えます。そこで、学習の進め方の提示や、児童が学習について関心を高められるような工夫、現在の自己を捉えさせ、変容や成長への期待を持たせているかということについて調査しました。

東京書籍6年生の6ページをご覧ください。巻頭の「どんな学びをするのかな？」で、気づく、考える、広げる、深めるの柱で、授業の流れについてイラストや吹き出しで分かりやすく示し、自分と違う考え方に会えるよさや、友達の考えと比べて自分の考えを膨らませるよさについて書かれており、道徳の授業がどのような流れで進むのかが分かりやすく示されています。ほかの5社についても、学び方について巻頭に示されています。

光村図書については、授業の流れではなく、みんなで気持ちよく話し合うためのコツとして、考え、議論する道徳を意識し、グループでの話合いのポイントを示しているという特徴が見られました。

児童が教材への関心を高めるという点で、各社の教材名が書かれているところにも特徴がございます。光村図書では、教材の冒頭にキャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されており、児童を教材に誘うような工夫がされています。

日本文教出版では、深い思いやりや集団の中での自分の役割のように、内容項目を児童向けの分かりやすい言葉で表したキーワードを示し、併せてキャラクターとともに吹き出しで本時の導入に役立つ発問例を示しています。

学研では、教材への関心を高める投げかけとして、教材中の印象的なキフレーズを教材名の

下に示し、児童が教材への関心を高め、主体的に考えられるよう工夫しています。

続いて、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めさせるための工夫については、各社の発問について調査しました。各社、どの学年でも結構でございますので、教材末をご覧ください。多くの会社では、クラスの実態に応じて発問を付け足すなど柔軟な指導ができるよう、発問を2つから3つに絞り、主に展開部分で使える発問が掲載されています。どの会社も、自己を見つめ、考えを深めるきっかけとなる投げかけをしています。

光文書院については、1年生から4年生まで4つの発問で構成され、導入から巻末にかけてそのまま使えるように構成されているのが特徴です。

自己の生き方について考えを深めさせる工夫というところでは、自己の変容や成長へ期待を持たせているか書き込みができるところを見てみますと、唯一日本文教出版には別冊のノートが用意されており、教材ごとに自分や友達の考え、振り返りなどを自由に記述できるようになっています。また、別冊ノートの巻末には、「見つけた！ここにも道徳」と題して、道徳の時間で学んだことと身の回りのこととのつながりを見つけてメモする欄や、「SDGsで考えよう」と題して、SDGsと教材の関連をメモする欄が設けられています。

光文書院の巻末には、「学びの足あと」として授業記録をつける欄があり、なりたい自分について書き込んだり、授業を受けた後の気持ちを矢印で表したりする欄が設けられています。

学研の巻末には、「つなげよう」、「広げよう」として、道徳の授業で心に残った言葉や出来事について書く欄が設けられています。

教育出版の教材末には、新しい気づきがあったか、大切にしたいことが分かったか、授業で感じたことを児童がすぐに記録できるよう自己評価欄が設けられています。ほかの会社も、巻末や二次元コードで取り出せるワークシートの中に、自分の考えや学習の振り返りを記入する欄が設けられ、重ねた記録を振り返ることで自分の成長を感じることができるとともに、教員が評価資料として活用できるようになっています。

(2) 現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫については、現代的な課題の取り上げ方について特に調査しました。各社の目次を見ていただくと分かりやすいと思いますが、何について考える教材なのか、各社ともマークやキーワードで明らかにしたり、いじめや情報モラルなどの現代的な課題については、教材とコラムを組み合わせたユニット形式にして連続で扱ったりと、学びがより一層深まるよう工夫しています。

光文書院については、目次に上向きの矢印で示されているページをご覧ください。へこんでも立ち直る心の力をつけようということで、レジリエンスコラムというものを設け、児童一人一人がへこんでも立ち直る心の力について考えることができるようにしていることが特徴です。

(3) 発達段階に即しつつ、深く考えることができ、狙いを達成する工夫については、発問や取り上げている教材について特に調査しました。先ほど発問については少し触れましたが、各社



とも教材ごとに狙いに迫るための問いが学年に応じた言葉で示されており、題材に偉人やスポーツ選手などの著名人を取り上げた教材がバランスよくありました。

他にも、例えば学研の6年生の50ページをご覧ください。今考えるべき話題の教材として、新型コロナウイルス感染症について取り上げ、新しい生活様式による行事を教材化し、伝統文化の継承について考えるような教材もあります。各社とも、変化の激しい社会において、世の中を捉える視点も多様化していることから、最新の話題を教材やコラム等で示し、児童自らが社会の一員として自覚を持ち、よりよく生きることについて考えていけるよう工夫しています。

(4) 考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫については、特に言語活動の充実に向けた工夫について調査しました。東京書籍の巻末には、考えるためのツールとして心情円など、子どもたちが自分の心の中を見つめるためのツールを示しています。思考の共有化、見える化をすることで友達の考えと自分の考えを比較したり、いろいろな理由を聞いたりして議論を深めることができるようにしています。

同じように、光文書院の巻頭にも、絵や図を使って考えようとし、考えを整理したり、まとめたりするヒントになるよう思考ツールを掲載しています。

日本文教出版では、「ぐっと深める」というコーナーを新設し、問題解決的な学習や体験的な学習などの手法を用いた効果的な展開の様子を写真で分かりやすく示し、体験や話し合いを通して児童が道德的価値の理解をより一層深められるようにしています。

学研では、「深めよう」というコーナーで、役割演技などの問題解決的な学習や、道德的行為に関する体験的な学習のヒントになるページが設けられ、道德的価値について多面的、多角的に学びながら考えを深めることができるようにしています。

光文書院では、「みんなでやってみよう！」を全学年で配置し、実際の問題場面を想定した活動を行うことで、よりよい人間関係について深めることができるようにしています。ほかの会社も、教材末に演じたり、話し合ったりすることで自分の考えを伝えてみようとい問いかけたり、話し合いに役立つ言葉や話し方を示したりして、言語活動が充実するよう工夫されています。

次に、2 資料についてです。各社とも、学習効果を高めるために児童の興味を引く大きいイラストや漫画形式の教材、紙芝居風の教材、大きな写真をメインとしたビジュアル教材等の工夫をしています。学研、光文書院、日本文教出版については、教材によって教材面の下に登場人物の挿絵と名前が掲載され、児童が教材の内容を把握しやすいようにしています。

次に、3 表記・表現についてです。各社とも、難しい用語には注記号や注釈があり、児童の発達段階に応じてふりがなが振られ、読みやすいよう分かち書きがされています。また、UDフォントやカラーユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさや行間も工夫されていました。調査報告書にある重さについては、第1 学年の教科書を取り上げて量ったものになります。一番大きさの小さいB 5 変形判の光村図書が最も軽量という結果になりました。

最後に、4総括についてです。こちらについては、特に日常生活や他教科とつなげる工夫について調査しました。東京書籍では、生活につながるような発問を教材末に示している以外に、教材に付随するコラム「つながる・広がる」で、本編教材で考えたことを他教科や日常生活に広げられるようにしています。

東京書籍の6年生の60ページをご覧ください。例えば、情報モラルについての教材を学習した後に、「つながる・広がる」のコーナーで様々な角度から情報を確認しようというコラムがあり、そのコラムを通して様々な情報を見たときに、本当にそれでよいのか、別の考え方はないか、日常生活の中で考えることの大切さを伝えており、学習したことがさらに深まるようにしています。

各社とも、教材末につなげようや広げよう、深めようとして、学んだことが他教科や日常生活、学校行事等につながるような発問を示しています。また、教材自体も児童の身近な学校生活や問題を取り上げ、児童が自分ごととして考え、学習したことを日常生活や他教科で生かせるよう工夫しています。

**吉田教育長** ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

質問、ご意見ございますか。

荒木委員。

**荒木委員** 選定委員として、どの教科書を推薦するのでしょうか。

**佐々木選定委員長** 選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出した意見なども参考にしつつ協議を行い、協議終了後、選定委員16名全員が6種類の教科書発行者について評価をそれぞれ5段階で記載し、無記名で投票いたしました。80点が満点となります。

その結果でございますが、2番、東京書籍50点、17番、教育出版50点、38番、光村図書51点、116番、日本文教出版46点、208番、光文書院51点、224番、学研69点。

本選定委員会といたしましては、点数の多かった順に69点の学研、51点の光村図書、51点の光文書院を推薦いたします。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** それでは、選定委員会ではどのようなことが話題になったのか教えていただきたいと思います。

**猪俣選定委員** 選定委員会では、大きく2点について話題が出ました。

1点目は、取り上げている現代的な課題について、各社ともバランスよく取り扱っており、共通していじめや情報モラルについては扱われていること。

2点目は、各社の発問の取扱いについて、1時間の授業が成り立つよう4つの発問を示してい

るもの、展開部分で使える２つから３つの発問に絞って示しているもの等があり、発問数については各社で違いがあるということが出ました。

以上でございます。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

渡辺委員。

**渡辺委員** 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その理由を教えてください。

**猪俣選定委員** 学校からの推薦では、学研を推薦する学校が最も多く24票、次いで光文書院が8票、東京書籍と教育出版が同数で6票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では、発問が主発問と自分との関わりで考える発問の２つに絞られている。具体的な教材や大きな絵、写真で分かりやすい。

教育出版では、毎回自分で評価を記入する欄があり使いやすい。また、常に自分だったらどうするかを問いかけている内容がある。

光村図書では、道徳はどのようなことを学ぶ学習かが詳しく書かれ、オリエンテーションにも使えそうである。

日本文教出版では、扉で学習の見通しが持てる。

光文書院では、導入、展開、発展の発問が各ページにあり、誰でも授業ができる。

学研では、どの学年にも考えようの項目があり、場面ごとに深めながら考えることができる。

また、４つの視点で色分けされており、児童が何についての学習なのかがよく分かり、議論しやすい等の意見がございました。

**吉田教育長** よろしいですか。

**渡辺委員** ありがとうございます。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

東委員。

**東委員** 調査の観点、内容（４）考え、議論する道徳を通してを、ご説明いただいたのですが、見てみると、その役割演技とかコミュニケーションスキルを高めるとかいったところがすごく多くて、各社で考えたり議論したりすることを促していくための工夫として似たようなのが並んでいるので、具体的に工夫しているようなことがあれば教えていただきたいと思います。

**猪俣選定委員** 例えば東京書籍の巻末、６年生を見ていただいたときに、考えるためのツールということで心情円盤とか、そういう自己を見つめるためのツールを示しています。このようなものを使って、子どもたちがいろいろな考えがあるのだな等を理解していくというのは、東京書籍の工夫している点かなと思います。

**吉田教育長** 例えばこの心情円をどうやって使うのですか。

**猪俣選定委員** 例えばお話の中で、友達のやり取りがあって、本当にこの場面でそれを言うべきだったか、言わないほうがよかったのか、どちらでもないのかというのを子どもたちに考えさせて、例えば言うべきだったのを赤く示す。言わないほうがいいという場合は青を示す。どちらでもないという場合は赤と青を同じぐらいの量で示すというような形で、色で子どもたちも周りのお友達がどんな思いを持っているかというのが一目で分かるような形で使っています。

**東委員** 少し補足してしまうのですが、この東京書籍の役割演技、動作化などの体験的な学習を取り入れた教材は、例えばどこの部分ですか。

**野口教育長職務代理者** 例えば東京書籍2年生の94ページとかが、役割演技だと思います。

**東委員** なるほど、分かりました。タカシとテツオになりきって考えようというのが、時々入っているのですね。

**吉田教育長** よろしいですか。他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 選定委員会には保護者も参加されていますが、どのような意見があったのでしょうか。

**佐々木選定委員長** 選定委員会1号委員さんから出た意見ですが、いろいろな会社が全て巻頭の部分に、見開きのページがつくられていて、こちらがすごくインパクトがあるというご意見が出ました。授業で、これはどのように活用されているのですか、興味があります、というお話がありました。

**吉田教育長** よろしいですか。

**山口委員** 実際にどんなふうに使われているのでしょうか。

**猪俣選定委員** 実際は、子どもたちに道德の授業の、その学年の一番最初のときに道德開きといって、道德の授業はこういうふうに進めていくのだよと1時間授業をするのですけれども、そのときに、道德に対して夢や希望を持たせるような、詩などが載っているので、それらを読みながら、子どもたちと道德が楽しみだなと感じてもらえるような授業展開に使います。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

なければ、私から申し上げます。学校からの推薦ということで学研が24票、次に多いのが光文書院で8票、かなりの差だったのですね。選定委員会の回答の中に、前は学研を使っていて、学研に変わって、学研が入ってきてということで資料分析もあったり、80点だったのが、今回その差が縮まって69点、この辺について何か話題になったことはあるのですか。

**猪俣選定委員** 選定委員会ではなかったのですが、調査部会の中で、やはり長く道德に関わっている先生方もいらっしゃったので、お話をしたときに、学研以外のほかの会社も、やはり身近な話題を取り上げたり、発問についても自分ごととして考える発問を設けたり、かなり工夫してくれているというお話は出ました。

**吉田教育長** 慣れてきたところで、いろいろな資料分析が重なって、より深くというのと同時に、

何かもう少し新鮮なものが欲しいみたいな、そういう雰囲気はあったのでしょうか。特にそういうことはなのですか。

**猪俣選定委員** 長くやはり使われてきた教材も大事にしつつ、学研も新しいものも取り入れているので、バランスは取れているのかなと感じます。

**吉田教育長** 各社がかなり工夫を凝らしてきたということですか。

**猪俣選定委員** そうです。

**吉田教育長** 他にございますか。

渡辺委員。

**渡辺委員** かなりの数の教材が入っていると思うのですが、これは当然全部できるわけではなくて、これを選ぶのは学年で選ぶのですか、それとも自分のクラスに合った教材を選んでいくのですか。

**猪俣選定委員** 1年間で35時間あるので、大体の会社が35の教材があるのですが、それより多く載せている会社ももちろんあるのですが、学校のほうで年間指導計画がありまして、学年ごとに大体この辺りにこれをやるというものが決まっています。例えば行事の近くだったら、その行事に関するルールやマナーに関するお話を取り上げようというのがあるので、大体はそれにのっとってやるのですが、学級の実態、学年の実態によっては、入れ替えて学習をしたりすることもあります。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** なければ質疑を終わります。

それでは、協議をします。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。

まず、調査の観点1、内容についてご意見ございますか。

野口委員。

**野口教育長職務代理者** 説明の中で、1の（2）現代的な課題についてということで、情報モラルとかいじめについても取り上げているということで、各社とも取り上げて工夫しているということですので、発行者の会社の努力に頭が下がるなと思いました。現代的な課題でもあって緊急性も要するようなものですので、各社が研究していただいているのだなと思いました。

それから、学研につきましてはずっと使ってきたというところがあるわけですが、大きな特徴としては、最初に狙いに迫るような主題名は掲げていないというのが学研の大きな特徴なのかと思います。本市での授業スタイルの中で、最初に今日は思いやりを勉強するのだよという形での学習は、していないのが一般的なのかなと思います。だから、本市の現場では、そのようなほうが慣れているなとは思いました。

また、話合いの柱につきましても、あまり細かく出しますと、先生からいつも、あるいは教科書を見ながら話し合わなければいけないということで、主体的に人の気持ちを考えるという視点が抜けてしまいますので、1つか2つがあつて、あとは子どもたちの中から出てきた話題に沿つて話し合っていくのが一般的な道徳の授業として成り立つのかなと。つまり、人の心を思いやる気持ちを育てることが道徳の一つの大きなねらいでありますので、柱につきましても子どもたちが登場人物の心の動きをよく見て、そこから柱を立てていくというのが一般的な進め方になるので、そういった意味では、あまりたくさん出ていると逆に機械的になってしまつて、よくないというような発想もあるのかなと思いました。いずれにしても、他社も見てみたいという気持ちも少し出てきているのかなと。ただ、学研につきましては、資料もたくさんあり、板書の絵とか、たくさん用意していると思いますので、それも活用していきたいという、ジレンマもあるかと思います。先生方もこういった機会に、いろいろな発行者の会社の資料などを見て勉強していただいて、取り入れられる部分があれば、また取り入れていくということもできるのかなと思いました。これまでの道徳の指導の仕方からすると、やはり現場としては学研がいいのだなということを今日、今回調査報告書等を見ても、改めて思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

山口委員。

**山口委員** 野口委員さんがおっしゃったことと同じで、学研が、文末の考えようという発問の2つがぼんつとあるだけで、ほかの会社は多分たくさん発問があると思うのですけれども、やはりある程度余白もあつたほうが、線路の上を走っているような感じではなくて、もう少し自由な議論を先生が投げかけたりとか、生徒からいろいろな意見が出たりとかがしやすいと思うので、学研のやり方は、学校の先生が慣れていらっしゃるというのも含めて、いいのかなと思いました。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

荒木委員。

**荒木委員** 野口委員さんもおっしゃったように、いずれの教科書も、いじめや情報モラル等の現代的な課題も扱っており、考えを深めることができるような工夫がなされていると思いました。私も同じく、その余白ということが大切だと思いますし、子どもたちの自由な考え、意見というものも大切に授業を進めていったらいいのではないかなと感じています。

それから、道徳の教科書は子どもたちが家で熟読することもある教科書です。といいますのも、私の子どももそうでしたし、実際に保護者の間でも、「うちの子、家で道徳の教科書ばかり読んでいるのよね」などとおっしゃっている方が複数いらっしゃいました。ですから、慎重にじっくりと心を込めて選びたいと思っています。

**吉田教育長** 他にございますでしょうか。

私も、言葉は不適切なのですけれども、似通つてはいると思います。学習指導要領では人生や

生活に生きて働く道徳性、これを育てるということを目的としています。あらかじめ教科書にその方向性が書かれていると、その教科書が求めているものに心を寄せてしまい、葛藤、昇華する場面が薄れ、深まらないということが懸念される場合もあるのだけれども、そういうふうにして、そういうふうに出てきてやろうと思っていたのを、切り返しの発問によって、えっというふうなことを子どもに思わせたら、そちらのほうが面白い。深まらないという可能性もなきにしもあらず。だから、この適切な切り返しの発問が用意されていれば、多分事前にテーマが設定されていても、深まる可能性はある。ただ、それは難しいですね。また、道徳の授業では、登場人物の心情や判断、理由を問う、いわゆる場面発問、さらに教材のテーマそのものに関わって掘り下げるテーマ発問、これは東書の場合は巻末に出てくる。手品師ってどこでも扱っているけれども、例えば5年の学研では、そういう発問が巻末に出てくる。同じく学研では、5年生の72ページにある手品師の下に、先ほどキーフレーズという言葉がありました。学研でもキーフレーズを使って、興味を喚起して、次第に関わることは教材、先ほど言ったように教材、本文の中ではなくて巻末に置いている。こういう工夫が見られる。対して他社の資料においても、いわゆるキーフレーズを置いて管理をしたり、さらには切り返しによって深まるというようなことから、あえてテーマを取った、前面に出したりしているところもあるのかなと思いました。むしろそういうふうにならぬ教材に興味を持って、さらにそれを扱ってみようというのは、全体としては少しレベルが向上したのかなって私自身は思っています。必ずしもそれが、それでどうなのだという話ではございません。

ですけれども、今のところそういう道徳というのは、多分道徳の授業の中だけではなくて、道徳の時間を核として、学校全体を通して深めていく、進めていくということですので、意思の継続が大事になってくると思うのです。そのためには、よりインパクトのあるもの、荒木委員さんがおっしゃったような、読み物として感動できるもの。ただ読み物だけではなくて、議論するというのは、さっき言ったように切り返しの発問によって議論が可能になってくるのだと思うのですが、そういうような資料が大事になってくるのかなと思いました。

報告書には、現在使用している学研の今回の教科書に対して、やはり教材研究がしやすいとか、使いやすいとか、親しみやすいといった票が、やはり多くなっていると思います。こういうところも大事にしていかなければいけないなというふうに思っているところです。

他にございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

**吉田教育長** 内容については他にないようですので、次の観点、資料から総括まで、資料、表記・表現、総括、これについては一括して協議することといたします。

この点についてご意見ございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 他に、この観点以外に協議したいことはございますでしょうか。  
よろしいですか。

〔発言する者なし〕

吉田教育長 ないようですので、これより特別の教科、道徳の教科用図書に係る採択に入ります。  
選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、渡辺委員、それから東委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者の番号順に、発行者番号、発行者氏名、評価点の合計点を読み上げます。

|         |        |       |
|---------|--------|-------|
| 2 番     | 東京書籍   | 2 1 点 |
| 1 7 番   | 教育出版   | 2 0 点 |
| 3 8 番   | 光村図書出版 | 2 1 点 |
| 1 1 6 番 | 日本文教出版 | 1 9 点 |
| 2 0 8 番 | 光文書院   | 2 4 点 |
| 2 2 4 番 | 学研     | 3 0 点 |

以上のとおり、特別の教科、道徳の教科用図書は、224番、学研を採択することに決しました。

さて、現在審議しています。第33号議案ですが、本日の審議はここまでとして、以降の種目につきましては、日を改めまして8月17日木曜日、午前9時半から今回と同じ第1委員会室で引き続き審議を行いたいと思います。



もう一度申し上げますが、8月17日木曜日、午前9時半から今回と同じ第1委員会室で引き続き審議を行いたいと存じます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

**吉田教育長** それでは、そのようにさせていただきます。

---

◎閉会の宣告

**吉田教育長** それでは、本日の会議はこれにて閉会といたします。ありがとうございました。

(午後 5時00分)

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

教 育 長

吉 田 氏

委 員

野 口 久 男

委 員

荒 木 明 子

委 員

渡 辺 律 子

委 員

山 口 文 平

委 員

東 宏 行

書 記

教育総務課調整幹

鈴木 理香